

2010 年度 インターゼミ

アジア・経済班 最終論文

3年 西村 遼

3年 岡 俊輔

3年 立花 友恵

2年 星野 一

2年 田邊 大輔

はじめに

約1年を通して、アジア・経済班では、「ヒト」「モノ」「カネ」「産業」の4つのフレームワークと位置付け調査・研究を行ってきた。グループで各自が持つ分野を特定し、調査を行うことで、どういう現状が、そこには存在するのかを注意深く見ることで、新しい価値の創造が、出来るのではないかと判断する。

アジア・経済班グループでは、参考文献等を幅広く使い、一定期間の時間を置き、各自のテーマで小レポート執筆を手掛けてきた。小レポートをベースとして、最終論文を記している。現状をよく認識しつつ課題と方向性を学生目線で位置付ける事は学生の特権だと実感する。

新聞や一連のマスコミの報道でもわかるとおり、行政・企業が瞬く間にアジア各国に拠点・もしくは工場の進出が相次いでいる。日本の法人税率が、40.69%で高止まりしていることから日系企業・外資系企業が、アジア各国にシフトしていく事が多く取り上げた。日本も来年度から法人税に関しては、35%とするなどアジア諸外国に負けないよう配慮しているが、グローバル展開の波に日本が、どの程度ついて行かれるかは、未だ判断できないのが現状である。上述の通り、アジア各国の状況を研究していくうちに、浮き彫りになっていくのは、日本の現状である。特に近年経済に力を入れているおとなり「韓国」の事例と比較され、日本がここまでデータで落ちてきているという現状が確認できる。

しかし、果たしてデータだけで、判断してよいのだろうか?と私は問題意識を感じた。データは世界各国を同じ土台でとった数値である。しかしながら、どの国も状況は異なる。世界各国に負けないよう努力を施すにしても同じような形態で、勝負を行ったとしても負けるのは当然とあると判断できる。

世界の流れは多様化していて、一概にこういう方向に進むというのは判断できない。アジア・経済班では、各自が同じ目線で物事を認識するのではなく、相手の立場で認識することにも着眼点を置いてきた。大事な事は行政の考えや専門家の意見に追随しては、ならないということである。各自がどのように感じたのかを大事にしたいと考えた。日本人は特に自分の意見に、自身を持たない気質がある気がしてならない。

2010年は政府の外交政策に関しても大きく問われた年であった。アメリカとは、普天間基地移設も問題中国とは、尖閣諸島問題などグローバル展開を掲げる世界の流れに、日本がどのような形で追随するのが問われている。だが、根本的に日本人特有の社交性のなさをどのように克服し、世界の牽引役として日本が、どのように主導権を握れば世界は、ついてくるのか日本の外交戦略にも、大きく疑問符が付いた年でもあった。今後の日本の成長にとっても、アジア市場を中心に関わっていくほか道はないと考える。どういう「志」を持ち、日本の立場を、強調していくかが問われている。

目次

はじめに

第1章 「ヒト」

立花友恵 P.9-21

1-1 はじめに

1-2 新成長戦略について

1-3 問題/課題 [健康 (医療/介護)]

1-4 アンケート結果 【参考文献】

調査アンケート結果

P.22-43

第2章 「モノ」

2-1~2-5 田邊大輔 P.44-48

2-1 はじめに F T A とは

2-2 F T A によって得られる効果 ~経済と国家戦力~

2-3 F T A 拡散の現状 ~隣国ではなく中遠距離国での締結~

2-4 F T A の経済的インパクト ~締結した国は得、それ以外の国は迷惑~

2-5 日本の F T A の特徴 ~金か威厳か~ 【参考文献】

2-6~2-13 岡 俊輔 P.49-53

2-6 韓国と日本の EPA 戦略

2-7 TPP より変革を求められる日本

2-8 TPP の成立は時間の問題

2-9 TPP により打撃を被る農業

2-10 日本の農業対策 新しい農業のあり方 【参考文献】

第3章 「カネ」

星野 一 P.54-77

- 3-1 アジア資本市場には小さな影響
- 3-2 アジアの実体経済には大きな影響
- 3-3 直接投資で存在感が強い日本
- 3-4 直接投資の減少は経済発展に悪影響
- 3-5 証券投資で存在感が弱い日本
- 3-6 脆弱であったアジアの金融体制
- 3-7 存在感を強めたアジア
- 3-8 まとめ
- 3-9 感想と今後の課題 【参考文献】

第4章 「産業」

西村 遼 P.78-85

- 4-1 はじめに
- 4-2 【資源】 バングラデシュ水資源
- 4-3 石油産油国の事例
- 4-4 石油資源はどれくらいあるのか
- 4-5 石油の次に大事な資源
- 4-6 【人口】 先進国の異常なる少子高齢化
- 4-7 アジア新興国の人口増大
- 4-8 【環境】利害関係が浮き彫りに
- 4-9 日本の環境対策
- 4-10 日本主導のフレームワークを作成せよ
- 4-11 まとめ・感想
- 4-12 今後の課題 【参考文献】

おわりに

第1章【ヒト】

グローバルスタディーズ学部3年

立花友恵

1-1 「人の流れとグローバル人材」

「アジア型経済システム」や「東アジア共同体」、さらに「日本の論点 2010」によると、経済のグローバル化が進む発展社会の中で、日本が取り残されないためには今後、さらに多様に変化する社会に柔軟に対応し、変化していく必要がある。さらに、そのためには日本国内でのビジネス展開を行うだけでなく、世界の中での日本として、経済発展を行うことが必要不可欠であるとしている。近年では、主に欧米諸国に視野が向いていた日本だが、現在、世界が不況に陥っている中で、急速に経済成長するアジア、この国々と共に日本も経済成長を可能にさせるために努力を重ねる必要があるとも指摘している。

そこで、日本のアジアへの関わり方が重要になる。「東アジア共同体」では、戦後の日本は、地域的な発想を持つ事自体を帝国主義的だと自己流に考えて、東アジアに関わる広域的な秩序をどのように作るかという議論をタブー視してきた。これらを反省し、アジア諸国の抱える問題を的確に理解し、効果的な協調のあり方を模索する必要があるといている。日本政府は、平成 22 年 6 月 18 日に「新成長戦略―元気な日本復活のシナリオ―」を閣議決定した。

日本が掲げた成長戦略に関する分野で「ヒト・モノ・カネ」の動きはとても重要である。広がる企業の外国人採用。企業は、「グローバル人材」を確保し、さらにその「グローバル人材」を活用して、将来を見据えて事業部のリーダーになれる人材を育成したいとしている。そして、日本人とは違った価値観を生かす事で、現地に適したものづくりが可能だともしているが、これにもまだいくつか問題点がある。

現在、日本には 14 万人近くの「外国人社員」がいる。厚生労働省が富士通総研に委託して昨年 9 月～10 月、上場企業を対象に実地したアンケート（約 800 社が回答）によると、4 割弱が技術者など高度な知識をもつ外国人を採用していたが、そのうちの 4 割以上が「受け入れ部署が限られる」、「言語・コミュニケーションの上の壁」の悩みを抱えていた。これらの問題には日本企業や日本に問題があると考え、果たして「グローバル人材」とは何なのかという問題提起からこの事についてのアンケート調査を行い、他の国の人が考える「グローバル人材」とは何なのか調べてみた。

1-2 「新成長戦略」について

平成 22 年 6 月 18 日に閣議決定された「新成長戦略―元気な日本復活のシナリオ―」によると、2012 年までの年平均で名目 3%成長を目指すとしている。今後、日本の強みを生かす「成長分野」は以下の通り。1.環境・エネルギー分野 2.健康（医療・介護） 3.アジア 4.観光立国・地域活性化 5.科学・技術・情報通信 6.雇用・人材 7.金融である。

この新成長戦略の「ヒト」の動きに関係する分野を重点に研究調査を行った。健康（医療・介護）分野で掲げているのは、国際医療交流。高齢者が抱える将来の不安を減少させ、生涯を楽しむための支出を行えるように医療・介護サービスの基盤を強化する。具体的に、医療・介護従事者の確保。質の高い・医療・介護サービスを安定的に提供可能な体制にすることである。

アジアの分野では、アジア市場一体化のための国内改革。日本と世界とのヒト・モノ・カネの流れに注目。具体的に、羽田 24 時間国際化・スカイ構想の推進などである。外国人観光客やビジネスマンなどのヒトの流れやモノの流れを作り出す。また、アジアや世界との大学、科学・技術、文化、スポーツ、青少年などの交流・協力を促進しつつ、国際的に活躍可能な人材育成を進める。

観光立国・地域活性化の分野では、「訪日外国人を 2020 年始めまでに 2500 万人、将来的には 3000 万人」にするとしている。2500 万人による経済波及効果は約 10 兆円を見込んでいる。急速に経済成長するアジア、特に中国は観光需要の拡大の可能性に満ちている。2008 年のデータによると、中国から日本を訪問している旅行社数は、年間約 100 万人、日本から中国を訪問している旅行者数は年間約 340 万人と大きな開きがあるため中国を含めたアジアからの観光客をどう取り込むかが大きな課題である。

1-3 問題／課題

[健康（医療・介護）]

2010 年 5 月 24 日の朝日新聞に 2010 年、4 月上旬にインドネシアに戻ったインドネシア人が誇りを傷つけられたとしている。2 年前に「介護技術の最先端を行う国でスキルアップしたい」看護師経験があれば、誰でも応募出来、無償で日本語の勉強をさせてもらえる。そんな条件にも惹かれ、その年の夏、経済連携協定（EPA）第一郡に参加。着任した関東の病院で待っていたのは、患者のおむつやシーツの交換、在庫品検査の仕事。注射や血圧測定はもとより、点滴ボトルの交換すらやらせてもらえない。母国で高卒が採用される「メディカルボーイ」と同じ業務に、やりがいは感じられなかったとする。

同僚も温情で週 2 日は試験対策で予備校に通わせてもらったが、仕事への失望感の方が大きかったようだ。仕事内容や難解な国家試験に嫌気がさす候補者も多いようだ。

国の施策として初めて外国人労働者に看護・介護分野の門戸を開いた EPA だが光と影があるようだ。

私は、日本における外国人に対する日本語教育に力を入れるべきだと思う。海外へ留学した際に ESL (English as Second Language) のクラスがあった。これは、第二外国語として英語を学ぶ学生専用のクラスである。このクラスは、現地の学生が英語を学ぶ時間と同じ時間、もしくはそれ以上の時間を費やし、海外からの学生向けに徹底的に英語教育をするものだ。日本には、まだ外国人労働者や外国人滞在者に対してのプログラムが整っていないように感じる。アンケート調査を行った際にも日本語能力の教育の差を感じる部分が多々あった。

[訪日外国人]

訪日外国人を何の目的で呼び込むのかを明確にする必要があると考える。現在、観光分野でアジアからの集客に日本は力を入れている。そこで、アジア人を対象に考察していきたい。日本政府観光局が 2010 年 7 月 25 日に公表した「JNTO 訪日外客訪問地調査 2009」の報告書から国籍別の「訪日前に期待したこと」をまとめたものによると、全体的には「日本の食事」がトップとなった。回答率は 58.5%であり、「ショッピング」(回答率 48.5%)、「温泉」(同 43.4%)となっている。

2006 年以降、トップはショッピングであったが、2009 年で、「日本の食事」がはじめてトップになった。「日本の食事」とは、「伝統的な日本の食事」のことをさしているのだろうか。それとも、すでに世界でもなじみがある「SUSHI」のことを意味しているのだろうか。実際、興味本位で「SUSHI」を日本で食べたいというのなら、わざわざ何度も日本にまで足を運ばなくとも良いという考えに繋がるのではないか。

実際に、日本でチェーン展開を行っている飲食関係の企業も海外進出しているため、あえて日本に足を運ばなくとも日本の「味らしき」ものを体験する事が可能だ。2位に挙げられているショッピングも、主にデパートで中国人が大量購入しているのはどこでも手にする事が可能な「ブランド品」である。現在、人気のある家電製品や衣料品なども大量購入しているアジア人だが、日本企業が飲食店同様に海外展開や進出を行えば、わざわざ日本にまで足を運ぶ必要がなくなり、これらを目的として訪れていた旅行者は減少すると考えられる。

アジア人のアンケート資料の中に挙げているのは、「温泉」である。これは、日本に訪れなくては、体験することができないため、地域活性化に繋げるためにもこの分野での集客に力を入れるべきだと思うが、全体的に外国人観光客の訪問地は主に、関東と関西である。

アジアからの観光客の比率が高い都道府県は富山、大分、熊本、佐賀、福岡となっており、九州地区が多い。これに伴い、2010年9月22日に九州観光推進機構はアジア戦略特区提案で「ビザ免除」などを挙げた。

しかし、すでに韓国が2010年10月に中国人観光客招致へ観光ビザ免除を検討。さらに、中国人に対し中長期的なビザ免除制度や東南アジアでの時ザ取得基準緩和を実行することが政府との交渉で決まったそうだ。韓国の対応としては、中国人観光客の満足度の高いレストラン100店舗をソウル・旅行レストランとして選出するなど、中国人招致に力を注いでいる。

[グローバル人材]

近年では、経営環境のグローバル化への対応で、外国人採用を拡大する動きも広がり、留学生が日本人学生と肩を並べる姿が多くなりつつある。NTTドコモは内定者のうち11人が中国や韓国、インドなどのアジアを中心とした外国人採用をした。今後も留学生を追加採用する計画で、人材のグローバル化を進めるようだ。2012年から社内公用語を英語にするとしている楽天は約480人もの新入社員のうち80人が外国籍である。

学生の立場からすると、日本の大学生に「グローバル人材とは何か」と聞いた際に「英語が話せる人」という答えが多いように感じる。さらに、自分は海外に行った事がないので仕事でも海外に行く事はないだろうという意識の低さも感じられる。先日、ある企業が主催するグループワークで他大学の学生達と話す機会があった。そこでは、日本にいる限り「自分の事を日本人と意識して生活したことがない」という意見や「海外から見た日本」などに関して普段から意識して考えていないことが分かった。感想などでも、今回のセミナーで行った、グループワークやチームの人たちとの話し合いを通じて「十人十色、様々な意見がある」というものが多く挙がった。私は、その感想を聞き、日本の大半の学生が今までの人生の中で様々な意見を出し合い、共有する機会が少なかったのだと感じられた。

私が考える世界で通用する「グローバル人材」とは語学が出来る人材という意味合いだけではない。例えば、語学力のみを必要とするならば企業は通訳を雇うと思う。あくまで、語学は一種のコミュニケーションツールにしかすぎない。グローバルな社会で活躍するためには日本のことを良く理解をして日本の良さを伝える能力が必要になる。尚且つ相手の意見にも耳を傾けつつ、自分の考えをどう発信していくのが重要である。

次に1-1「人の流れとグローバル人材」でも述べたような原状から「なぜ、日本企業は外国人労働者を雇っても上手くいかないのだろうか」ということを考えたい。そのことについて「グローバル人材 マネジメント論」に理由が述べられている。

まず、日本企業は、グローバルとローカルの部分でも統括している人が日本人だということ。海外拠点でもその支社の代表は日本人であり現地の外国人が代表になることはまずない。後述でそのこと記すとする。

さらに、日本企業は日本人におけるグローバル人材育成に力を入れたいとしている。グローバル化がささやかれる前は、日本企業は「人の流動」が良かったとしている。その人の流れから多く学べる事があるとしている。しかし、その動きも国内止まりなので少々他国に比べて出遅れているように感じる。また、自社の強みや価値を染め上げる形で個人力とネットワーク力のある人材でグローバル化を行えば良いと考える。

日本の企業はそもそもどういう人材が欲しいのだろうかという事が疑問である。サムスンが外国人労働者を採用し、成功しているので例に挙げてみたい。「グローバル人材 マネジメント論」によると「例えば、教育重視の企業変革だ。3Pと言われる **Product, Process, Personal** と価値、プロセス、人材の三位一体改革を強力に推進している。」サムスンの人材戦略は、「国籍を問わず、世界的に優秀な人材を採用する」ことである。そのために海外主要拠点以外にも研究所を建て人材の受け入れの拠点としているそう。現地で採用を行い、国内に留学させる制度も広く運用されているように国内での優秀な人材ではなく海外から優秀な人材を集めていることが企業の規模拡大や成長に繋がっている。

日本人をグローバル人材として教育する際にサムスンの人材進化のためのプラットフォームを参考に出来ると思う。それは、「徹底を核心価値の共有、次世代リーダーの育成、グローバルコンピテンシーの開発を三つの柱とし、思想、価値観、能力を学び、経験を広げ、単なるビジネスマンではなくサムスンマンとして進化するための学ぶ機会が設備を設ける」ことだ。

日本企業も適応能力を持った人材の採用なり教育に力を注ぐべきだと考える。ここでの「適応」の意味とは「グローバル人材 マネジメント論」の中にも記載されているように「企業 X の強み・価値を海外進出先の状況に適応させる事」である。なぜなら、「ただ現地でその企業に合わせるだけでなく、柔軟にその企業に合わせて新しい仕組みなどを生み出したりする事」。

前述を踏まえるとただ単に、浅い理解のまま海外へ行き、柔軟に対応出来ない人はいくら海外を訪れても意味がない。これは、自国のことを理解していないのにも関わらず、お金のある日本人学生が遊学としてアメリカに憧れて、簡単な英会話が出来るようになるのと似ていると思う。日本企業の強みは、長期雇用やチームワークを特徴とし、人材を育成することに力をいれていると思う。

この長所を生かし進出国においてもそれを活用すべきだと考える。

「グローバル人材 マネジメント論」で指摘されていたように日本企業は、現在の問題を解消するために「外国人労働者を採用する際に人材要件や等級など役割を明確にし、その要件に満たす人材を選別する必要」である。そして、その要件を満たした人材を配置し、定期的に評価して適任な部署に再配置する必要があると思う。外国人労働者や留学生の採用の枠をもう少し拡大すべきだと考える。そこで、私たち日本人との認識の違いや新しいアイデアの発見もあるかも知れないと思い、実際に日本に来ているアジア人留学生にアンケート調査を行い、日本に関してやグローバル人材に関して聞いてみた。

現在、日本に来ているアジア人留学生のうち東京の有名大学に通う学生 10 名、立命館アジア太平洋大学に通う学生約 20 名にインタビュー調査を行うことが出来た。インタビュー調査を行っている際に感じたことは、ほとんどのアジア人留学生が「日本という国に期待を抱き留学をしている」のだと感じた。日本で流暢な日本語を習得し、日本企業に就職し何年間かの下積み時代を経て、日本企業の良さや技術を学び自国に帰り自分で活躍できる場を開拓しようと考えている留学生が多いようだ。しかし、留学生の中には現実はその簡単ではないと感じている学生も多数存在した。

立命館アジア太平洋大学では、アジア人留学生の育成に力を注いでいる。さらに、国籍を問わず「世界で活躍できるグローバル人材育成」をモットーに日本企業でも活躍できる人材を育成していることが大きな特色のようだ。立命館アジア太平洋大学では、全学年のうち 5 割が留学生であり、日常的に「外国人」と「日本人」が関わりやすい環境である。そのためこの大学に通う学生は比較的外国人と関わることに抵抗がないようだ。

私は、立命館アジア太平洋大学で勉強をしている学生は「日本語能力が高い」ということに驚かされた。その理由として、徹底した日本語教育プログラムがあるからだ。なぜなら、学生のほとんどが流暢な日本語を話している。ベトナム人留学生に話を聞くと来日してから日本語を習得したと話していた。他にもこの 9 月から通い始めた学生がいたが、彼女はまだ日本語を習い始めたばかりなため流暢に話すことは出来なかった。

また、この留学生たち全員が英語の数値が高いことにも驚かされた。留学生にはアンケート形式で質問にも答えてもらった。この結果、流暢に日本語を話す学生は存在しても、設問には日本語と英語があり日本語で書くのではなく英語を選択し回答する学生が多かった。立命館アジア太平洋大学では、入学する際にある程度の英語の数値を求められるようだ。始めのうちは英語さえ出来ればよいとしている。

さらに、留学生のための奨学金制度を設けており、授業料を全額免除なども行っている。さらに、留学生を呼び込むために立命館アジア太平洋大学では、各アジア地域に赴き学校での宣伝活動にも力を入れているようだ。

新たに、いくつかの項目別にアジア人留学生に問いを投げかけてみた。その結果を述べようと思う。全体的に、日本企業に関して思う事は、日本企業は競争力が強く、技術水準が高いことやグループワークに焦点を当てて、チーム一丸となって目標を達成するという意見や中国系の学生達は、日本の商品は偽物ではなく信頼性がすごくあり、品質も良く素晴らしいという意見が多く挙げた。一方で、日本はすごく保守的で伝統を大切にする傾向がある。さらに、調和を保つ事が求められ、研究開発能力が高いが商品のイノベーションのスピードが遅いなどという意見もあった。

アジア人留学生 30 人に行った日本に関することとグローバル人材についてアンケート調査の結果は以下の通りである。

1. 「母国から日本や日本企業はどのように見えていますか?」という問いに対して、日本企業は、発展しており技術力があり質が高いと回答する学生が 12 人。長期雇用をするのが日本企業であると答えた学生は 6 人。雇用形態が年功序列型であると答えた学生は、4 人であった。その他の学生は、ストレスがたまりやすい。クビになりにくい。残業が多いなどの意見があった。さらに、日本企業は長期雇用を行うのと同時に長期期間に亘り、企業が求めている人材へと育てあげるといった意見もあった。確かに日本の企業は、その個々の能力を高めるよりはその会社にフィットしていくように人材育成をしているように思える。

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか? (日系・外資双方で)」また「日本人と働きたいですか?」日本で働きたいとしている学生は、20 人。3-5 年間くらいなら日本で働きたい人が 2 人。働きたくない学生やまだ分からないという学生もいた。また、日本で働きたくない学生の中に「心が広く活発な日本人とは一緒に働きたい」という意見もあり、大多数の日本人は心が広く活発ではないと捉えられているのだと感じた。3-5 年日本で働き技術を習得して母国に帰り経済発達に役に立たせるといった考えを持っている人が多いように思う。

3. 「日本人をどのように捉えているか?」 / 「日本人は、リーダーシップ力があると思いますか?」日本人に対しては、マナーが良いと回答した学生は 5 人。日本人はやさしいと回答した学生 4 人。まじめだと回答した学生 3 人。シャイなど自己主張がないと回答した人は 2 人。リーダーシップ力に関しては、帰国子女や海外へ行った人または MBA を持っている人はリーダーシップ力がある 2 人。

欧米の方が日本人よりリーダーシップ力があると思うという答えが多く見られた。やはり、日本に留まっている人ではなく海外へ足を運び切磋琢磨してきた人に関してはリーダーシップ力があると感じているようだ。

4.「日本は観光立国を行う事が出来ますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」観光立国になれると回答した学生は、17人。行えるとしている学生や行えないとしている学生の中では交通費やその他のコストがとて高いため値段を下げる必要があると示唆している人が多いことが分かった。さらに、言語の面でもバイリンガルになる必要やその現地の言葉で分かるようにする必要があるとしていた。言語に関しては度々問題視されてきたが、日本人は使える語学力を身につける必要があるように思える。交通費の高さをコストダウンすることに成功すればさらに多くの観光客を呼べるのだろうと思う。

5.「日本のホスピタリティーをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」日本のホスピタリティーは良いと考えている学生は、20人。安全で安心だと答えている人が1人。悪いと答えた人は、4人。理由としては、言語の壁のようだ。中国語表記をもっと増やして欲しいなどという意見もあった。あとは、日本は公共交通機関の使用料金が高いと回答する学生も3人おり学生の立場から払えるお金に限られているのではないかと感じた。ホスピタリティーに関して仕事においてはとても良い印象だが、家族間でのホスピタリティー精神に欠けているという意見もあった。(これは、文化の違いによるものだと思うが、「お客様扱いをする(おもてなし)」というものは、他人にすることであり家族間ではそういうことをしないので、その落差を感じたようだ。)

グローバルに関しては、以下の通りである。

1.「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」5名ずつ回答がでたのは、コミュニケーション力、リーダーシップ力、文化理解力の3つだ。次に言語力が3名必要だと回答した。次に2名ずつその人自身に魅力がある人、決断力がある人、グローバルな考え方が出来る人、努力が出来る人が挙げられた。他の意見は、前向きである人、計画性がある人などがあがった。

アジア人留学生も日本の学生とほぼ同様の価値観だと感じた。一人の学生が日本においてビジネスを成功させる人材は、チームワーク力を発揮しつつ、その中で仕事が出来るという回答もあり、日本のビジネス形態に焦点を置き、考えている学生もいた。

2.「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」

30名中、25名が相手の国の文化を理解することは大切だとし、そのための調査を行うとした。このことは、異なる文化背景を持つ人々と円滑に働くためにはとても重要であるとしていた。また、お互いの国のことを理解し合おうという努力が大切ではあるが、大まかに知っていれば良いとのことであった。あとは、実際に現地に行ってから学ぶことだともしていた。文化を理解せず、サービス提供なんて出来るはずがないとも指摘していた。グローバルに仕事をするということは、相手のことを理解するところから始まるのであり、それが始まらない限りグローバルに仕事を展開していけないという結果が出た。

3.「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」この答えも上記と同様に、25人は文化理解が先決としていた。あとは、英語力や現地の言葉の習得。彼らが興味を持っていることを学び、彼らの良く知る話題を振る事も効果的であると回答した。あとは、面と向かってきちんと話をする事だ。他には、グローバルな考え方（様々な国でも同じように対応）をする必要があるとしていた。

4.「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」最も多かったのは、語学力が高いと回答した学生14人。この語学力も多言語を習得していることが望ましいようである。次に、文化理解・コミュニケーション力が必要だと考えた学生は、10人。グローバルな視野を持ち、オープンマインドな人と回答したのは6人であった。

5.「日本とあなたの国は共存共栄可能だと思いますか？」また、「どのように共存共栄していけると考えますか？」共存共栄できると回答した学生は、20名。残りは、2名ずつがビジネスの相手のみとして、経済面で共存共栄できるとしている。残りが、結局すべてのことが日本と関係しているので共存共栄していると思うと回答した。問題点は、歴史的な問題を乗り越えること。さらに、日本は同じ土俵で他国の人たちと協力をし、新規開拓するアドバイザーとして力を尽くしていく必要があるのだと思うとのことだった。

1-4 まとめ

アンケートを通じて感じたことは、観光立国に日本が近づけるためには、日本国内で訪日外国人向けに交通費などや旅費の金額を安くすることである。さらに、旅行先や観光地などで言語に長けた人材を輩出するために「ホスピタリティー人材+グローバル人材」の教育に力を入れる必要があると思う。

具体的には、現在の学生に対して語学や日本についての教育を重視する反面、自分で物を見て、感じて、考えて、他者を受け入れつつ、自分の意見を発信できる、主体的に動く人材の育成が重要だと考える。

日本企業の外国人採用の受け入れに関しては、日本企業の受け入れの幅の問題点や雇用の仕方が不適切であるため、アジアからの留学生や外国人を採用してもコミュニケーションが取れないという問題が生じる。そのため、その点をどのように改善していくのかが今後の課題であるのではないかと。さらに、外国人の日本語教育にも力を入れる必要があると思う。現在、外国人の日本語教育を民間の NPO 法人に任せている政府だが、公立学校で早急に外国人の日本語教育システムを構築し、受け入れ態勢を整えていく必要がある。

また、近年は内向きな学生が増加している。しかし、このような外国人の日本語教育システムを構築する取り組みが出来れば、日本にいながら効率よく外国人と関わる事が出来、グローバル人材が育つ機会に繋がるのではないかと。これからの若い世代に必要な事は、様々な国の人と関わり、その中で切磋琢磨することだと思う。そこから、得られる沢山の情報を自分自身に取り込み、今まで考えもしなかった意見やアイデアを構築していけばいいと思う。

戦後の日本は、何も無く、国民は苦勞をして、生きていくためにがむしゃらに働き、日本で成功を収めた。そして、その結果が高度成長期を経て、今の経済発展に至っている。その際に使用したビジネスのノウハウをうまく利用して、海外にアイデアを提供していけば、その国が発展していける手助けが出来ると思う。現に、バイク産業などは、インドやインドネシアで需要が高まっている。日本の中小企業のブランドの洋服店などは、中国などで爆発的に需要が高まっている。なぜなら、以前に流行った日本の企業戦略が現在の中国のニーズに適応しているからである。これからはこのような、日本の技術を提供していくべきだと思う。日本は、他の国々と共存共栄していくためにも何年間かはこのことに徹すべきだと思う。

【参考文献】

東アジア共同体：経済統合のゆくえと日本 谷口誠著 岩波書店 (2004年)

アジア型経済システム：グローバリズムに抗して / 原洋之介 中央公論新社 (2000)

グローバル人材マネジメント論：日本企業の国際化と人材活用 / キャメル・ヤマモト著
東洋経済新報社 (2006)

日本の論点 2010 文藝春秋編 (2010年1月)

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」

Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか?(日系・外資双方で)」また「日本人と働きたいですか？」

Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?

Do you wish to work with Japanese people?

3. 「日本人をどのように捉えているか?」/「日本人は、リーダーシップ力があると思いますか？」

Tell us your impression on Japanese people.

Do you consider Japanese people as a good leader.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例: ○○プランみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)

Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

5. 「日本のホスピタリティーをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」

Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.

How is Japanese hospitality different from that of your country?

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」

What kind of person do you think will be successful in business?

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」

When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?

When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思えますか？」

Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思えますか？」また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」

Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

以上

名前:

性別: 男/女

国籍:

大学名:

Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の 立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願い致します。

インターゼミ研究調査アンケート 大学別回答集

目次

立命館アジア太平洋大学 (APU).....	23
早稲田大学.....	36
慶応義塾大学.....	40
明治大学.....	41
東京工業大学.....	42
東京大学.....	43

1. 立命館アジア太平洋大学 (APU)

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

②-1 6

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご質問下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 わからない

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 はい、働きたい。

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
 頭が固い、
 いいえ。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
 いいえ。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

②-2

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？ 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 わからない

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 日本人は苦しくても諦めぬ人。

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 はい、
 多分。

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 わからない

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

②-3

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 多くの言語が話せる。

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？」また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
 はい、可能だ。

以上

名前:
 性別: 男
 国籍: 韓国
 大学名: APU
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102t@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

②-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご質問下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 In Korean, Japanese Corporations are treated as target or the best rival of Korean Corporations.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 Yes. That is one purpose that I chose Japan.

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
 It's very general but some of Japanese leaders are brilliant.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
 Japan is high powered in Tourism also not based.
 Since I think Japanese industry is very highly developed.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑦-2

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 Mostly it's good, but for foreigners, it's hard because of language problem.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 Person who can adapt to any kinds of places.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 1. Yes - of course. without that, there's no chance to do globally work.
 2. Not just know, we must feel how they feel.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 do matter its languages, try to understand them is important.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑦-3

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person ha/she would be?
 Person who can accept any kinds of culture.

5. 「日本とあなたの国は共生可能だと思いますか？」また、「どのように共生共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
 It's possible, if Japanese government confess what they did in Korea, China and other Asian countries while colonial ages.

以上

名前: Jun.
 性別: 女
 国籍: 韓国
 大学名: 立命館 APU.
 Email: christied.

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで(E-mail:20831102tt@tama.ac.jp)ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑧-1

「インターゼミ研究調査アンケート」
 このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご買下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 Good After service.

2. 「今後、日本で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 Yes.

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader?
 Depends on people.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇ブランドみたいな物があるとならに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country? Yes.
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
 Handicraft

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑧-2

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 person with money

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture? Yes
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country? Yes

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 understanding their culture.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑧ - 3

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

Leadership

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？」また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

Don't know

以上

名前: Tom
性別: 女
国籍: Japan
大学名:
Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑨ - 1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島 隆 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

The structure of company has big difference.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか? (日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか?」
Do you wish to work in Japan in the future (Both in Japanese/Non-Japanese company)?
Do you wish to work with Japanese people?

I'm not thinking about work in Japan in the future because I'm thinking of going to graduate school after graduation from April.

3. 「日本人をどのように見えているか?」日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
Tell us your impression on Japanese people.
Do you consider Japanese people as a good leader.

Japanese people are hard-working types, especially while they are in a group.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例: OOブランドの物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country? Yes.
Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
Such places like Kyoto, nara, hokkaido.

以上

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑨ - 2

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
How is Japanese hospitality different from that of your country?

I agree with that, especially in service.
(ホテル、レストラン)

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか?」
What kind of person do you think will be successful in business?

Those people have tolerance in leadership.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか?」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

Of course, the background is important, because of the culture differences.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか?」
How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

The most important thing is to understand that country's culture, background.

以上

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑨ - 3

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

He or she must have global view of the world, know the culture differences of other countries and between his or her own country.

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか?」また、「どのように共栄共存していけると考えますか?」
Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

China and Japan are rightly connected on business these days, so of course these 2 country are able to coexist and prosper mutually.

以上

名前:
性別: 男/女
国籍:
大学名:
Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 Japan is a lovely country with very generous & helpful people. I believe that working in Japan in a Japanese company allow employees great work experience.

2. 「今後、日本で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 Maybe. Not sure where I want to work just yet, but I would love to work with Japanese people even if it's not in a Japanese company.

3. 「日本人をどのように捉えているか？日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
 To be a good leader you need to be outgoing, motivation -al and be able to express their ideas clearly. However, Japanese people tend to keep to themselves and not contribute much.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
 Yes, if they made an effort to change their language base to bi-lingual. i.e Tour guides should be able to speak in English & Japanese.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 I agree.
 Japanese people are extremely kind and generous and very helpful even to foreigners.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えられますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 In Japan - someone who is respectful of his seniors' opinions and ideas and complies with them.
 Else where - more outgoing, thinks out-of-the-box, team player, expresses himself clearly.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's a culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 Yes. I think this is important in order to work easily with people from different cultural backgrounds.
 Yes, I most probably will to see what kind of taste my customers have.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 I would use English or their native language to communicate with them.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 1) Fluent in as many languages as possible.
 2) Great personality (helpful)
 3) Open minded & outgoing.

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
 It depends on the field and how they communicate with each other since language is a barrier.

以上

名前: Yu Takahie Tenya
 性別: 男
 国籍: Sri Lanka
 大学名: APM
 Email: tahayul0@apu.ac.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願ひいたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 Japan and Japanese companies are well-organized.
 However, when dealing with threats, sometimes Japan and Japanese companies don't seem flexible. e.g Apple - iPad, Sony - Walkman.
 This is from a Taiwanese (台湾) point of view.

2. 「今後、日本で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 I don't really wish to work in Japan, but I would like to work with some Japanese people who are open-minded and active.

3. 「日本人をどのように捉えているか？日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people. Most of Japanese - follow regulations, shy.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
 帰国子女 - they have the merits of not so straightforward, Japan and western cultures. risk-averse.
 Active, risk-taking, love to challenge.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
 Yeah, Japan is a really great tourist country for traveling.
 Japanese really know how to provide service well.
 one suggestion: import more foreign goods, make the cities more diverse. e.g. a specific zone for European lounges.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 In My country
 Yes, Japan is. Taiwan, I think
 it's about same.
 Good: People are delicate to serve with great manners.
 Bad: Except being more internationalized, nothing really.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 Passion, patience, perseverance, considerate, knowledgeable.
 High EQ, eager to learn, study and challenge.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 Yes.
 Yes, a detailed research is crucial.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 I would like to talk with them face to face and observe observe.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 like the characteristics I mentioned in
 "グローバル人材に関して" 1st question.
 but here, I think "able to know at least 2 foreign languages" is important.

5. 「日本とあなたの国は共生可能だと思いますか？」また、「どのように共生共栄していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can please give us an example.
 Yes. If there are some parts which my country needs to cooperate with Japan.
 Will a lot of Taiwanese enterprises are highly
 connected to Japanese enterprises. 経済面
 Taiwanese young people are influenced by Japan
 and its culture (music, movies, dramas) 文化面

名前: KUO Li-Kang (カト)
 性別: 女
 国籍: 台湾
 大学名: 立命館大学 立命館大学
 Email: kkuo07@apu.ac.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」
 このアンケートは、論文を書く際に参考させて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご質問、ご意見、ご感想 インターゼミにてご共有ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 Chinese company recruits people with skills they need.
 Japan has a "long-term training" process to train people to the kind they want.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか(日系・外資双方) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 Yes I wish to.

3. 「日本人をどのように捉えているか?」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader?
 kind.
 not so good as western people.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドの物があつたら日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
 1) Yes because Japan has a long history and culture.
 2) different culture-based theme parks.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 good aspect: environment is clean and very convenient in all aspect about life.
 bad ~ 物価、交通費が高い。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 confident, has leadership, good at communication.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 b. very important.
 => people's life-style in that country.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 learn what they interested in.
 chose topics they know well.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
*good at English
 knows different ~~countries~~ culture around the world.
 good at getting well with all kinds of people.*

5. 「日本とあなたの国は共生共存可能だと思いますか？」また、「どのように共生共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
*Yes.
 everything in a nature is related to everything else*

以上

名前:
 性別: 男/女
 国籍: China
 大学名: APU
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「専属誌 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
Compared to my country Vietnam, Japan is a very developed and modern country. The standard of living in Japan is a very high and Japanese people are very hard working and kind. Japanese companies have a reputation all around the world. Their products are high-valued and consumed all around the world, especially electronic products.

2. 「今後、日本で働きたいと思うか? (日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか?」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
*I do wish to work for international company in Japan.
 I think working with Japanese people is fine but I have to learn more about the Japanese custom and Japanese way of thinking.*

3. 「日本人をどのように捉えているか?」日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
*Japanese people are very kind and hardworking. They are also very disciplined and responsible. However, I think the young generation of Japan is changing.
 I don't consider Japanese people as a good leader.*

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇ブランドみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXXX.)
I think Japan will be able to become a Tourism-based country since Japan has plentiful natural resources for tourism such as mountains, beaches, hot springs... What Japan can do is to build more tourism infrastructure, and reduce the cost of travelling in Japan.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
*I agree that Japan is a very hospitable country.
 The Japanese hospitality is quite similar to that of my country. People are very friendly and willing to help. They are also very patient and helpful.*

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか?」
 What kind of person do you think will be successful in business?
The kind of person that will be successful in business is the kind of person that have mixed qualities of the western and eastern world. For instance, those that are diligent, hard-working, disciplined but also creative, active and open-minded.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか?」また、「新しいビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
It's absolutely important to understand other country's culture when working globally. Therefore, I'll perform research on a the country that I work for.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか?」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
I'll try to follow their customs and learn their way of thinking.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
A global human resource is a person that think critically, easily adapt to cultural differences and have high command of interpersonal communication skill.

5. 「日本とあなたの国は共生共存可能だと思いますか?」また、「どのように共生共存していけると考えますか?」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
I absolutely think that my country and Japan are able to coexist and prosper since we share a lot of customs and qualities. Japanese people and Vietnamese people are both very hard-working, diligent and responsible. We also have long history of cooperation. Japan can help Vietnam develop a modern economy and Vietnam can provide Japan high-quality and low-price human resources.

以上

名前:
 性別: 男/女
 国籍:
 大学名:
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
Japanese Company mostly focus on their group-meeting.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
No.

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
Very kind. I think Japanese people do the group job better than as a good leader.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
Yes. Price is a little bit high, so I think it will be better if the price is lower.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
*I don't think so. Even though the environment of Japan is really good, the tempo is really fast so that many people get lot stress.
 The environment and the high price.*

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
the one who has leadership and powerful and kind.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
Yes.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
Learn their language.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
like to communicate with others.

5. 「日本とあなたの国は共生共存可能だと思いますか？」また、「どのように共生共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
Yes

以上

名前:
 性別: 男/☑
 国籍:
 大学名: APU
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
Japanese Company mostly focus on their group-meeting.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
No.

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
Very kind. I think Japanese people do the group job better than as a good leader.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
Yes. Price is a little bit high, so I think it will be better if the price is lower.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧ください。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration. *The products of Japanese company is in high quality, and also good looking.*

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また日本人で働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
No.

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
polite and hardworking
No. They ~~strong~~ cannot make decision unhesitating and don't want to take others' advise.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇ブランドみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country? *Yes. thanks to the good scenery and service.*
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) *I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX. make things cheaper.*

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it. *I agree with that it gives good environment.*
 How is Japanese hospitality different from that of your country? *bad: High price on products.*

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
good communicate skill
take others' advise better advice.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture? *Yes*
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country? *Yes*

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
learn the language of the country
and the culture.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
be Able to speak several languages.
good communicate skill.

5. 「日本とあなたの国は共生共存可能だと思いますか？」また、「どのように共生共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
Yes. China and Japan are connected tightly in business.

以上

名前:
 性別: 男
 国籍:
 大学名: APU
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 Who has leadership and kind personality

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 It is important to understand other country's culture.
 I would perform a research in that country.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 Personally he/she can speak English or other language and they should know other and understand other country's culture.

5. 「日本とあなたの国は共生可能だと思いますか？」また、「どのように共生可能していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

以上

名前: Park Jun A
 性別: 男
 国籍: Korea
 大学名: APU
 Email: junpa09@apu.ac.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで(E-mail:20831102tt@tama.ac.jp)ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」
 このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。【寺島塾 インターゼミ】でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国などは貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 Compared with Korea, Japan is economically developed, and its companies are well-known around the world.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 Yes, I do. I want to have a job in Japan. It doesn't matter if it's Japanese or foreign company. I also want to work with Japanese.

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.
 It depends on people. I have met a lot of Japanese and they most of them are good leaders.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇ブランドみたいな物があるとさらに日本に観光客に来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.
 I think the most important things of tourism is infrastructures. Especially languages support for tourists. If it will be improved well, Japan will become a number 1 tourism country.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 I can't tell about it because I have no idea to say it.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 Be flexible.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 Yes, I do. Researching the cultures of country is really important.
 Yes I do.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 Let's try to understand the cultures with their languages.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
be flexible person, to understand the inter-cultural societies.
異文化をわかりかいてる人。

5. 「日本とあなたの国は共生可能だと思いますか? また、「どのように共生可能していけると思いますか?」
Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
There are still historical problems between Korea, I think it is possible to work with each country together.
以上

名前: 角、ハナ
性別: 男 女
国籍: 韓国
大学名:
Email: jonyj08@apu.ac.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたいと考えております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されるので是非ご買下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか?」
Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
Japan is a beautiful country with a very different culture. Japanese companies are very successful & work as a team to achieve their goals.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか? (日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか?」
Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
Do you wish to work with Japanese people?
Maybe, I haven't decided yet, since Japanese language is a great barrier for working in Japan.

3. 「日本人どのように捉えているか?」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
Tell us your impression on Japanese people.
Do you consider Japanese people as a good leader?
Japanese people are very kind but also very quiet and don't express themselves so no I don't consider Japanese people to be good leaders as they contribute very little in conversations & meetings.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか? また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい」(例:〇〇ブランドがない物があるときに日本に観光しにきたいと思う。)
Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g.) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
Yes, I think so.
Should be bilingual - tourist destinations, town should be bilingual so that tourist can travel without a problem.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

5. 「日本のホスピタリティーをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
How is Japanese hospitality different from that of your country?
Yes they are very hospitable, but I believe my country is more hospitable to strangers as well as family, whereas in Japan, family (excluding immediate family) is not so important.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか?」
What kind of person do you think will be successful in business?
In Japan - Some one who can work in a team and follow orders and do as their told.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか? また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
Yes it is very important to understand other country's cultures or else there could be a lot of misunderstandings.
Yes, I would perform research on that country.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか?」
How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
Communicate in their style and understanding their differences and cultures.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
インターゼミ所属 立花友恵
Email:20831102tt@tama.ac.jp

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
A person who is very open minded and get along with people from different cultures & backgrounds.

5. 「日本とあなたの国は共生可能だと思いますか? また、「どのように共生可能していけると思いますか?」
Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.
It depends on the field and how they communicate since language is a great barrier. Maybe yes because we are all in region of Pacific and have similar traditions & believes.

名前: Nilutchi Fernando
性別: 男 女
国籍: Sri Lanka
大学名:
Email: nilo_d@live.com

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:208311024@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

中国 High and good quality. We likes to find somethings which are made in Japan. We believe that the quality will be much better than made in China. However, we think that although the products are made in China, if the company was Japanese

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」(company was Japanese)
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)? company, it would be good also.
 Do you wish to work with Japanese people?

I would like to work in Japanese Company in Japan.
 I wish to work with Japanese people because here is Japan.

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.

Japanese people are serious on working I think.
 Yes, I think Japanese people are good leaders.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？/また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

Of course Japan will be able to become a Tourism-based Country, because lots of people love Japanese culture including me.
 I don't know where and what to improve because I would like to come to Japan more and more.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:208311024@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?

I also think so, too. (If it means the 服務業) But there are still also bad memories.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 自信に自信、<, be able to accept others' opinion.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？/また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

Of course I consider it to be important to understand other country's culture and it is necessary. We should understand others' culture to make the business better.
 Yes, I would.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

Using my passion and heart to communicate with people.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:208311024@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

They could speak lots of languages I think.

5. 「日本とあなたの国は共生共存可能だと思いますか？/また、「どのように共生共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

I think my country and Japan are able to coexist and prosper mutually.
 Because the 性質 of Japan and Taiwan are different.
 Although we are all development 技術。 technology.

以上

名前: Ting
 性別: 男(女)
 国籍:
 大学名:
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで(E-mail:208311024@tama.ac.jp)ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:208311024@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

Japanese company is comparison w/ Thai company has many differences. One of the big difference is the life time employee of Japanese company which is not there in such system in Thailand.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?

No, due to my plan of going to master my degree in USA.

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as a good leader.

Japanese people have very good abilities, and I think they can be good leader since they learned little by little since they're kids for such matter like body on time.

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？/また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

Yes, since Japan has many tourist spots so it'd be easy to become a Tourism-based but the price of products or such transportation fee might need to be reduced to attract more tourists.

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」

Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.

How is Japanese hospitality different from that of your country?

I think Japan has a very high hospitality. I'd say that whoever comes to Japan, they'd find it's very convenient. Compare to my dad Thailand, Japan has offered much better service.

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」

What kind of person do you think will be successful in business?

A person w/ good aspect of leadership skills. Listen to others' thoughts while thoroughly for better.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」

When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?

When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

Of course it is. Understanding that country's culture'll make benefit for your own work.

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させることに繋がりますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

Try to get to know that person, the characteristic of the people from that country to see their aspects. Ask their opinion about the business point of view.

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」

Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

Very optimistic and good at people management skills.

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？」また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」

Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible? If you can, please give us an example.

以上

名前:

性別: 男/女

国籍:

大学名:

Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

2. 早稲田大学

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

①-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 研究開発能力が高い。
 商売のイノベーションスピードが早い。

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 はい、日本国で働きたい。

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 そうですね。よくは外国でMBAを修了したことがある経営者は、リーダーシップがある。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？ また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

①-2

「インターゼミ研究調査アンケート」

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

交通費を下げろ。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？ 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 良い点: とても親切です。
 悪い点: 笑、こゝろが、実態が悪い店も多い。
 私の国は匂いが悪くは、笑、笑。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 決断力が高い。 ずいぶん知識が豊富で、
 言語力が高い。

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？ また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 はい、大切だと思います。

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

①-3

「インターゼミ研究調査アンケート」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 親切で、英語でコミュニケーションをすれば、いいと思います。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 グローバル視野を持っています。
 言語力が高い。

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？ また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
 可能だと思います。
 台湾の企業と連携し、中国に進出する。

以上

名前: 頼明紅 カンペン
 性別: 男
 国籍: 台湾
 大学名: 早稲田大学
 Email: greda@enns@hotmail.com

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

②-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 朝鮮半島の、年功序列制度。

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 はい。

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 保守的な側面が多い、特、リーダーシップが弱いと見えます。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？ また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
 No.

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

③ - 2

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
Cost down? try to make things cheaper

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
The room is so comfort, not so comfortable

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
Leadership & communication ability & special knowledge at work

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
Yes, it's important! If you don't understand the culture, you will become rudely or feel like helpless

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

③ - 3

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
first making relationship to family life

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
Speak several languages, open and enthusiastic

5. 「日本とあなたの国は関係共存可能だと思いますか？」また、「どのように共存し続けると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
*Yes
 Tourism? Technology*

以上

名前: オウノカ
 性別: 男
 国籍: 中国
 大学名: 多摩大学
 Email: heilou@fiji.vcweb.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102t@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

「インターゼミ調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご質問下さい。「寺島 立花」にてご返信ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 ① ② ③ ④
① ② ③ ④ 競争が多い

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 ① ②
*① 5年ぐらい働きたい
 ② 正直に働く働きたくない*

3. 「日本人をどのように捉えているか？」日本人は、リーダーシップがあると思いますか？
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 ① ②
*① 昭和の時代日本人が好き 「良い人」 「good leader」
 現在の日本人若者が「悪い人」 「悪い人」
 「開き」 「気が小さい」
 ② ない!*

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるとともに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)
なりのあると思う。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
熱心に接してくる。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
多様な技能を持つ人。

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
大切で、調査します。

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp
 とに繋がりますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

相手の文化を学ぶ。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

国際的な視点を持ち、行動する。

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.

もちろん可能です。

以上

名前:
 性別: 男/女
 国籍: 中国
 大学名: 早稲田.
 Email:

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102t@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご買下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

技術・信頼できる日本企業

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系+外資両方で) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?

日本、日本人と働きたい

3. 「日本人をどのように捉えているか？」「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?

よし、おもしろい人
 ある

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (a.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

あります。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?

良い点 安心、安全な国
 悪い点

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?

知識と努力が強い人

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

大切、調査する

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

とに繋がりますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

直接に話し合い。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

異文化でも活躍できる人

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.

可能、技術を他国と交流する

以上

名前: 友恵
 性別: 男/女
 国籍: 日本
 大学名: 早稲田大学
 Email: chisater@tama.ac.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102t@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp 「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
The quality of Japanese product is great, Japanese company is worthy of trusting.

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資両方で) また日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
Yes, I want to work in Japan for 3~5 years.

3. 「日本人をどのように捉えているか？/日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
*Some, 飲み会が行き、マナーがいい
 I'm not sure, maybe*

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」 また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるとさらに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?
Yes, 観光地がもっと多い

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp
 Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g.) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

if the tickets can be cheaper.

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」 また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
初対面の人に対しては polite 丁寧、民族意識が強く、いざ文化が受け入れにくい。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
Independent, with professional knowledge.

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」 また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
*Yes.
 Yes.*

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp
 とに繋がりますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
Learn the local language.

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
Bi-Multi lingual, able to accept new concepts.

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？」 また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
*Yes.
 Cooperated project on environment protection.*

以上

名前: *Yihe Wang*
 性別: 男
 国籍: 中国
 大学名: *Wanda*
 Email: *wangyihe@hotmail.com*

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしく申し上げます。

3. 慶応義塾大学

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

②-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか?」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 ① 技術力を持つ

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか? (日系・外資両方) また「日本人と働きたいですか?」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 ① 思う。

3. 「日本人をどのように捉えているか?」日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 ① 日本人は仕事に熱心する。あると思う。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:○○ブランドがあるとならに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

②-2

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

① 土産 徴収
 ② 特になし

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 ① 感じます
 ② 良い点: サービスの質が高い
 悪い点: 不自然

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか?」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 「open mind」 「プロ意識」
 「決断力」

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか?」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 ① 大切! お互い理解しようとする。努力が大
 ② ①にまかい調査 いらない。
 必要では。おかしは「いい」

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

②-3

とに繋がりますか?」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

① 政府の人

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 「英語、中国語、日本語」
 「話術がある人」 「小さい所にはたあ 必要な人」
 「話しやすい人」 「open mind」

5. 「日本とあなたの国は共存可能だと思いますか?」また、「どのように共存共栄していけると考えますか?」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
 ① 可能
 ② ?

以上

名前: トウ、ケン
 性別: 男
 国籍: 中国
 大学名: 慶応義塾大学
 Email: Jackie - 1126 - deng @ 26.keio.jp

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

4. 明治大学

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

④-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く前に参考させて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご確認ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか?」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.

現地の雇用、労働力、利益を出す「猛獣」がルポの政治家(笑)

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか(日系・外資双方) また「日本人と働きたいですか?」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?

はい

3. 「日本人をどのように捉えているか?」日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?

日本人は、日本人のなかからリーダーを育てるべき

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プログラムなどがあるときにさらに日本に観光しに来たいと思う。)

Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

④-2

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (a.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

外国の産物を採り出す

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?

良い
 素晴らしいサービスを提供する、開かれた心

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか?」
 What kind of person do you think will be successful in business?

思慮、読書、広い視野

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか?」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?

はい
 はい、相手の調査

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるか」

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

④-3

とに繋がりますか?」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?

グローバルな視野、海外事業展開に心掛ける

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?

読書、深い洞察を持つ人

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか?」また、「どのように共栄共存していけると考えますか?」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.

以上

名前: 横君 洋
 性別: 女
 国籍: 中国
 大学名: 明治大学
 Email: kadow2012@gmail.com

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

5. 東京工業大学

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑤-1

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島盛 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 日本について: 発展、財力かまじめ、働かたい(働かれない)
 日本企業: 働かたい(働かれない)

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか?(日系・外資双方で) また「日本人と働きたいですか?」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 日本国で働きたいです。日系企業の方がよいです。

3. 「日本人をどのように捉えているか?」/「日本人は、リーダーシップがあると思いますか?」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 やさしいです。あまがも任事も熱心があります。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか?」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいな物があるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑤-2

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (a.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

ーなると思います。且
 ーコスト↓,英語力↑

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか? 良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか?」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 基本的によいと思います。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えますか?」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 外交的、コミュニケーション力がある。
 せつとくか、
 多國文化に対応できることなど。

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか?」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか?」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 大切なと思います。
 調査します。

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102tt@tama.ac.jp

⑤-3

とに繋がりますか?」
 How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 こうとくを輸出したり、日本のブランドをまわめてアピルした方が多い。
 베트남人は日本のブランドが好きです。

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか?」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 言語、多國文化の対応。

5. 「日本とあなたの国は共生共栄可能だと思いますか?」また、「どのように共生共栄していけると考えますか?」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
 可能だと思います。互いにわかり合って、必要とこころ。相手の立場を考慮してこうとする。

以上

名前: クエン トゥア、ズオン
 性別: 女
 国籍: ベトナム
 大学名: 東京工業大学
 Email: s2kduong@yahooc.com

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102tt@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いたします。

6. 東京大学

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

「インターゼミ研究調査アンケート」

このアンケートは、論文を書く際に参考にさせて頂きたく思っております。今学期終了後にネット上に論文が掲載されますので是非ご覧下さい。「寺島塾 インターゼミ」でご検索ください。

* 日本に関して

1. 「中国・韓国または貴方の国、それぞれの国から日本や日本企業はどのように見えていますか？」
 Please tell us your point of view on Japan and Japanese company. While doing so, please take your country in consideration.
 一生涯で同企業に働くシステムで、転職はあまりない。

2. 「今後、日本国で働きたいと思うか？(日系・外資両方) また「日本人と働きたいですか？」
 Do you wish to work in Japan in the future (both in Japanese/Non-Japanese company)?
 Do you wish to work with Japanese people?
 はい、考えています。

3. 「日本人をどのように捉えているか？」/「日本人は、リーダーシップがあると思いますか？」
 Tell us your impression on Japanese people.
 Do you consider Japanese people as good leader?
 チームワークが優れている。リーダーシップがある人はやや少ないかもしれない。

4. 「日本は観光立国になれると思いますか？」また、「日本が観光立国になるために、改善すべき点を挙げて下さい。」(例:〇〇プランみたいなものがあるときに日本に観光しに来たいと思う。)
 Do you think Japan will be able to become a Tourism-based Country?

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

Please tell us what you think Japan should improve in order to become a Tourism-based Country. (e.g) I would want to come to Japan more often if there was such a product as XXX.)

はい。

5. 「日本のホスピタリティをどのように感じていますか？良い点、悪い点を挙げて下さい。」また、「貴方の国とどのように異なりますか？」
 Japan is usually considered to be a country with high hospitality. How do you personally consider it? Please tell us both good/bad aspects of it.
 How is Japanese hospitality different from that of your country?
 とてもいいと思います。日本のもてなしはいいが、清潔がもっとあればいいと思う。

* グローバル人材に関して

1. 「どのような人材がビジネスで成功すると考えていますか？」
 What kind of person do you think will be successful in business?
 先見性がある、グローバル視野

2. 「グローバルに活躍する際に、相手の文化を理解することは大切だと思いますか？」また、「新しくビジネスを行う際に、相手の国の事を知るために調査を行いますか？」
 When you work globally, do you consider it to be important to understand other country's culture?
 When you start a new business in a country, would you perform a research on that country?
 はい、大切だと思う。
 はい。

3. 「あなたの国でビジネスをする際に、どのように現地の人とコミュニケーションをとればそのビジネスを成功させるこ

多摩大学グローバルスタディーズ学部、3年
 インターゼミ所属 立花友恵
 Email:20831102t@tama.ac.jp

どのようにしますか？」

How would you communicate with people from a country in which you are trying to succeed in business?
 現地・土地の第1や、法律や市場や生活習慣を調査し、ビジネスを始める

4. 「あなたが考えるグローバル人材とはどのような人だと思いますか？」
 Tell us your view on global human resource. What kind of person he/she would be?
 グローバル視野、open-mind

5. 「日本とあなたの国は共栄共存可能だと思いますか？」また、「どのように共栄共存していけると考えますか？」
 Do you think your country and Japan are able to coexist and prosper mutually? If so, how do you think that is possible. If you can, please give us an example.
 はい、協力して、互いの国をより発展させる

以上

名前: 廣 靖純 (ひろ せいじゅん)
 性別: 男
 国籍: 台湾
 大学名: 東京大学
 Email: eimg7518@gmail.com

ご協力ありがとうございました。もし何かございましたら、多摩大学グローバルスタディーズ学部3年、インターゼミ所属の立花友恵まで (Email:20831102t@tama.ac.jp) ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

第2章【モノ】

経営情報学部2年

田邊大輔

2-1.FTA とは

英語で **Free Trade Agreement** の略である。2 国間または地域間（多国間）で、物品の関税や数量制限など、貿易の障壁を取り除いて自由貿易を行う協定である。1990 年以降急速に協定を結ぶ国が増えた（後述参照）。日本は現在、シンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ、フィリピン、インドネシア、ブルネイ、ASEAN の 8 国 1 地域で発効中であり、ベトナム、スイスの 2 カ国は調印済み、湾岸協力会議加盟国（アラブ首長国連邦・バーレーン・クウェート・オマーン・カタール・サウジアラビアの 6 カ国）、オーストラリア、インド（大筋合意）、ASEAN+6 は交渉中、韓国は交渉停止状態となっている。

2-2.FTA の効果

経済的相互依存は、貿易集中度の高まりこそが地域統合への最も重要な誘因であると主張。経済活動の拡大に問題が生じると、政府は国家主権の一部を委譲して解決する。しかし、明確性が実は足りないのである。

国内ロビー活動とレントシーキングは特定の生産者グループに権益をもたらす貿易の中心を変えると主張するものである。しかし、条件を満たさないとほぼ締結されない。それは①FTA による貿易創出が消費者グループの支持を獲得し、②FTA から獲得する輸出国内産業分野の利益が、不利になる産業の損失を大幅に上回る場合、③国内で弱い産業分野を保護するため、FTA で自由化例外措置が設置された場合。①のプラス要素と②③のマイナス要素を天秤にかけて締結する。（例）地域内の緊張緩和や同盟国の優遇、貿易/投資ルールの制定などで、国家間の圧力の掛け合い、課題が山積みである。

国家主権は、自国だけでは実現できない共同利益を獲得するために、あるいは国内利益集団に対する利益を得るために、地域統合を通しての主権委譲に合意する。同盟関係、安全保障関係に関わる。強い経済相互関係を構築することによって、安全保障条約など相手国との関係を深くさせる国家戦略である。立場の弱い国が強い国に打診するのが一般的な特徴である。

2-3.FTA 拡散の現状

FTA は 1992 年に急増し、その年に 100 を超え、2008 年に 400 を超えた。内容としては、1980 年末までは FTA とはいえ先進工業国が関わることであり、先進国同士がほとんどだった。しかし、1992 年以降顕著に南北間および南南間 FTA によって強い結びつきを目的としても使われるようになった。2000 年から 2007 年までに WTO に通報された 113 の FTA の内、50 件（44%）先進国・途上国間の協定である。次に 34 件（30%）は途上国同士の協定である。これは、発展途上国で FTA が広く受け入れられていることを裏付けているのと、先進国も所得がはるかに低い発展途上国とも締結している。地理的な面で言うと、最近の FTA の多くが地域間 FTA である。113 件の内、58 件が地域をまたぐような形で締結されている。FTA によって周辺国が一体化するのではなく、拡散している事が伺える。

2-4.FTA の経済的インパクト

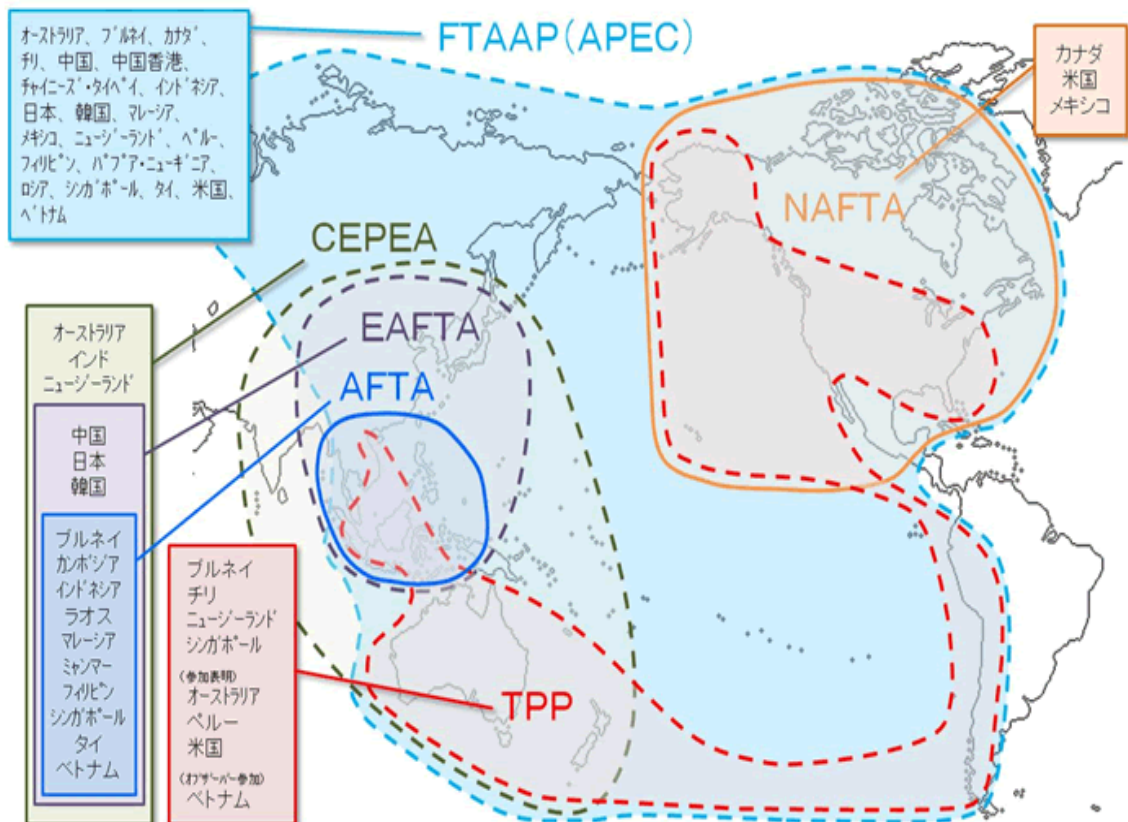
FTA の経済効果は静態効果と動態効果に分けられる。動態効果は「貿易創出効果」、「貿易転換効果」、「交易条件効果」であり、動態効果には「市場拡大効果」、「競争促進効果」が含まれる。「貿易創出効果」とは、FTA によって貿易障壁が撤廃された結果、締結国間に新たな貿易が創出され資源配分が改善することを指す。「貿易転換効果」とは、FTA によって第三国からの生産効率の高い輸入品がより生産効率の低い FTA 相手国からの輸入品に置き換えられることを指す。実際のところ、「貿易創出効果」は大きな効果があるが、「貿易転換効果」はプラスになるかマイナスになるか締結する前に測れないのである。マイナスの面として、FTA を締結していない第三国は大きなダメージを被る。貿易転換効果では第三国の FTA 締結国への輸出を減少させるので、第三国の FTA 締結国への輸出を減少させるので、第三国の経済厚生は低下する。交易条件効果による第三国の交易条件の悪化も、その経済構成を減少させることとなる。確かに FTA による第三国へのマイナス要素が発生しているから競争的 FTA の急増をもたらしているのは事実である。なので、その第三国にならない為に、FTA 締結がブームとなっているのである。市場においても、市場拡大効果によって市場が拡大され、より効率的な生産、流通と規模の経済の実現を促す。市場統合により、FTA 域内の寡占産業の競争環境はとて苦しくなる。しかし、競争することによって改良される可能性も高いのである。

2-5.日本の FTA の特徴

FTA を決定するとき、過去の成功体験（例、シンガポールなど）を模倣するのと他国との競争の意味があるという。他国との競争に勝つことによって経済的利益、政治的利益、ルール形成上の利益といったものである。日本は FTA を 3 つの課題を対処するために利用した。1 つめは、日本の国際的なビジネス部門が持つ特定の海外市場での競争上の優位確保または強化すること。2 つめは、アメリカや中国の FTA とは異なる、日本独自の特惠経済統合へのアプローチを普及させること。3 つめは、東南アジア諸国に働きかけることで中国に対抗する地域リーダーシップの信用性高め、統合に向けた協議域外国を招き入れて中国の影響力を相殺することであった。

しかし、近年事情が変わり、競争の激化により対応が増え、FTA 政策が遅れてしまっているのが現状である。台頭する中国に対し、経済利益の最大化を図り中国との 2 国間 FTA を交渉してビジネス中心とするか、または中国を台頭する対抗国と捉え、経済統合を日本が地域リーダーシップを主張する政治家の意見を中心とするか、決断を迫られている。

更に、農業など弱い部門の反対もあり、踏み切れていない。（市場開放レベルが顕著に低いからである。悪循環）日本は、2 国間 FTA が多い。



現在の締結状況はこうなっている。日本は APEC しか参加していない。TPP に参加するか否か論議を醸しているが、世界からは参加予定と見られていないのが現状である。TPP の日本のコンセプトとしては日米 FTA である。

EAFTA（東アジア自由貿易協定）とは、ASEAN（10 カ国）と日本、中国、韓国の 13 カ国（ASEAN+3）による自由貿易協定（FTA）構想のことである。2002 年の ASEAN+3 首脳会合で経済大臣会合に対し、東アジアにおける FTA の検討を指示した。2005 年 4 月から、2009 年 6 月まで専門家による研究会が実施された。2009 年の ASEAN+3 首脳会議において、今後、政府間で議論することに合意している。

CEPEA（東アジア包括的経済連携）とは、ASEAN（10 カ国）と日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドの合計 16 カ国（ASEAN+6）による包括的経済連携構想。2006 年 4 月の経済産業省「グローバル経済戦略」において、同構想を提唱し、2007 年 6 月～2009 年 7 月まで、専門家による研究会が実施された。2009 年 10 月の東アジアサミット（EAS）において、今後は政府間で議論していくことを合意した。

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）とは、2006 年に発効したシンガポール、ニュージーランド、ブルネイ、チリの 4 カ国による経済連携協定。2015 年までに各国が原則として 100%の関税を撤廃することになっている。

米国、オーストラリア、ペルーが参加を表明。ベトナムがオブザーバーとしての参加を表明している。

南部アフリカ関税同盟とは、ボツワナ、レソト、ナミビア、南アフリカ共和国、スワジランドの 5 カ国による関税同盟のことである。

EFTA とは、欧州自由貿易連合のことである。欧州経済共同体（EEC）の枠外にあった欧州諸国が、EEC に対抗するため、イギリスが中心となり 1960 年に設立した、自由貿易連合である。現在参加している国はアイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタインの 4 か国である。

今現在地域間 FTA が発効しているのは、3 つのみとなっているが、管内閣は、「アジアをはじめ各国との交渉などを積極的に進めるとともに、投資規制の自由化・緩和などの国内制度改革に一体的に取り組みます」民主党 Manifesto2010 参照と記述している。それによれば今後日本が、EPA ならびに EAFTA のような地域間 FTA を結ぶ可能性はほぼ 100%である。

【参考文献・資料】

アジア太平洋の FTA 競争 ミレヤ・ソリース・浦田秀次郎・片田さおり 勁草書房

21 世紀アジア学 三浦信行 成文堂

Ando and Urata (2007)

The Korean Statistical Information Service <http://kosis.kr/>

OECD.StatExtracts <http://webnet.oecd.org/wbos/index.aspx>

JETRO <http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/>

財務省 <http://www.mof.go.jp/siryou.htm>

National Bureau of statistics of China, 2007.

経済産業省 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/apec2010/data/data.html

2-6. 韓国と日本の EPA 戦略

まず、EPA の概要としては経済連携協定であり、ある国や地域が相互に経済の幅広い分野で連携強化を目指す協定である。自由貿易協定 (FTA) の主要な要素である関税引き下げに加え、サービス、投資、人の移動の円滑化など、貿易にとどまらない分野で協定するのが特徴。多国間の交渉で合意にかかる世界貿易機関 (WTO) より短期的に成果が出ることから、世界的に締結数が増えている。日本は 2002 年にシンガポールと FTA を締結。2005 年 4 月にメキシコと締結したのが初の EPA である。

日本の EPA 取り組み状況を見ていくと、発効・署名済はシンガポール、メキシコ、マレーシア、チリ、タイ (07 年 11 月)、インドネシア (08 年 7 月)、ブルネイ (08 年 7 月)、アセアン (08 年 12 月 1 日)、フィリピン (08 年 12 月 11 日)、スイス (09 年 9 月 1 日)、ベトナムの 10 カ国 1 地域であり、交渉中の国は大筋合意のインド、ペルー、豪州、GCC (湾岸協力会議)、現在交渉中断中だが、再開に向け事務レベルで協議中の韓国の 4 カ国 1 地域である。また、研究・議論中なのはアセアン+6、アセアン+3、日中間、モンゴル(官民合同研究中)、EU の 4 カ国 1 地域である。

世界の EPA の進展を見ていくと、1990 年以降、EPA の数が大幅に増加し 27 件 (1990 年) →113 件 (2000 年) →243 件 (2009 年 2 月) となっている。特に最近では、韓国の積極的な取り組みのほか、米国が TPP 交渉を開始し、EU がアジア諸国との交渉に取り組み、中国がアジア近隣諸国との取組みを積極化している。順に追っていくと、07 年 6 月に韓国 FTA 署名、10 年 10 月に韓 EU・FTA 署名、10 年 1 月に韓印・FTA が発行されている。また、10 年 3 月に TPP (環太平洋連携協定) が交渉を開始し交渉国はシンガポール、ブルネイ、NZ、チリ、豪州、ペルー、ベトナム、米国があがっている。

10 年 5 月には日中韓 FTA の共同研究が開始され、10 年 5 月には韓中 FTA 共同研究所の報告書を取りまとめ、10 年 6 月には中台 ECFA が調印 (枠組同意) されており、10 年 3 月に EU シンガポール・FTA の交渉開始がされ、10 年 3 月に EU ベトナム・FTA の交渉開始に合意している。

FTA 競争の現状を見ていくと、日本の EPA は、東南アジア諸国などが一巡、難度の高い段階へと来ており、逆に韓国は、大胆な国内対策を講じ、米、EU 等との FTA を積極的に推進している。韓国は米国・EU とは署名済、インドとも発効済である。そして韓国は貿易額の過半を FTA でカバーしているのである。日本と韓国の FTA 現状を比べると日本は発効済+署名済の国が 16%、交渉中まで含むと 38%に対し、韓国は発効済+署名済は 35% であり交渉中まで含むと 63%に達し、韓国と日本の歴然とした差が見られる。

EPA 締結の遅れによる影響としては生産拠点の海外流失、先行者利益が考えられる。日豪交渉が停滞する一方で、タイ豪 FTA の発行により、日本の自動車は、タイで製造し、豪州へ輸出され、豪州の自動車輸入に占める日本のシェアが減少。日本の製造業がタイへ生産拠点を移す動きが加速している。

一方、韓国に先行して発行したメキシコとの FTA においては、輸送機械の輸出額が韓国に比べて伸び幅が大きい（日本：05 年 4 月発効、交渉中）。また、メキシコ市場における日系自動車メーカーのシェアが急増している。

2-7. TPP より変革を求められる日本

TPP とは環太平洋戦略的経済パートナーシップ協定 (Trans Pacific Partnership) の略である。域内の物品貿易は関税を即時撤廃するのが原則で、品目によっては 10 年間で段階的に廃止する。シンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイで 2006 年に結んだ自由貿易協定が発端。現在は米国、豪州、ペルー、ベトナム、マレーシアを加えた 9 カ国で交渉が進んでいる。コメなど特定品目を関税撤廃の例外措置とするよう求めながら交渉に参加するのは現実的には難しい。

2-8 TPP の成立は時間の問題

内閣府の試算では TPP の参加により日本の経済は数兆円の効果があるとしている。世界は自由貿易化の流れになって来ており、特に韓国は自由貿易に相当の力を入れており、これ以上動かないままでは取り返しのつかない可能性がある。

羽田空港が国際化されたが、少しでもはやく日本のヒト、モノ、カネの動きを流動的にしなくてはならず、TPP 参加は自然の流れであり可能性は極めて高いと言える。

2-9 TPP により打撃を被る農業

農水省によると、TPP に日本が参加した場合、国内の農業生産額が 4 兆 1000 億円減るとの資産を明らかにしている。2008 年の農業総算出額 (8 兆 4736 億円) の 48% にも当り、文字どおり農業は壊滅的な打撃を受ける。また、食料自給率は 14% に落ち込むが予想されている。国産産業を含めた国内総生産 (GDP) のの喪失は約 8 兆円近くになる見通しである。

政府は「開国と農業の両立」を訴え個別所得保障制度を唱えているが、現時点で明確なビジョンは提示されていない。

このような状況で、農業界からの反対は必然であり、すでに各地で反対運動が起きている。全国農業協同組合中央会 (JA 全中) などが 10 日午前、東京都千代田区の日比谷公園内で政府の環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) 交渉への参加に反対する緊急全国集会を開き、農林漁業関係者ら約 3000 人 (主催者発表) が氣勢を上げている。また、JA グループ鹿児島は 13 日、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) 交渉への参加に反対して、鹿児島市など

県内の4市1町で「ふるさとを守る緊急総決起大会」を一斉に開いた。

大会には、合わせて2500人が参加した。生産者や消費者らの決意表明に続き、「断固反対」の大会決議を採択した。

2-10 日本の農業対策 新しい農業のあり方

TPPが可決する可能性は極めて高く、TPPによる農業の大打撃は必至である。その中で、農業界は現状を変化させていく意外に選択肢はない。逆に言えば、変化を恐れず進み続ければチャンスともいえよう。その中で、農業界が厳しい国際競争の中で生き残っていくには、世界に目を向けるか、新しい付加価値をつけてビジネスを行うしかないと考える。以下、参考事例を三つあげるである。

① (株)生産者連合デコポン 井尻 弘二 (千葉県成田市)

デコポンを販売する井尻氏は海外への販売を進めることで、年商10億円に迫る事業に育て上げている。

千葉県内の有機農産物を引き売りで売ることから始まった同社は、1993年4月の設立時には有機農産物を専門に扱う小売業、外食業向けの卸が業務の主体だったが、スタッフの海外旅行がきっかけで、シンガポールと香港に取引先をおいている。

国内で3000円の宅配パックが、香港に送ると運賃や現地の事務手数料などを含めて790香港ドル(約9400円)、シンガポールでは170シンガポールドル(約1万250円)になる。しかし円高が進んだ現在でも、特に注文が減るということはないという。

中国の農作物は安全性が低く、農薬で死者が出ていた時期もあったという、それに対し日本の農作物は安全、信頼というブランドがあり上記のような高額な値段でも取引が可能なのである。また、デコポンという珍しい種類であることが受けたのだろう。中国は広いが、まだまだ日本にあって海外にない農作物はあるはずだ。

② 日系ブラジル人向け農作物

現在、日本各地に暮らす日系ブラジル人は約30万人。その人たちが故郷で食べていた野菜や果物を日本国内で生産、供給している人がいる。群馬県大泉町を拠点に「C・A・H」という屋号でブラジル野菜を生産・出荷する林治男(60歳)である。出荷にあたってはブランド名として、董ブラジルの味藷を意味するサポール・ブラジレイロという名称を使っている。全国450以上の店舗に届けられる作物の売り上げは、月平均約1000万円。出荷先はブラジル人向けのスーパーやブラジル料理店ばかりではなく、半分は一般のスーパーだという。

日系とはいえ数世代にわたってブラジルに暮らしてきた人々が慣れ親しんできた食材に対するニーズは大きく、生産力をはるかに超える需要がある。さらに、新しい食材に対する関心も高まっている。また、ブラジル野菜の多くはヨーロッパ諸国を原産とするものであり、ブラジル以外の外国人にも懐かしさを感じさせるものであるらしい。

このような、今まで想定していなかったターゲットを狙うことによってまったく新しい市場を探り当てることが出来るのではないだろうか。

③ 体験型農業、アグリツーリズム、京都綾部市

最近、若い世代を中心に農業ブームが起きている。それは、農作物を食べるといよりは、自分自身が農をすることである。それによって、精神的な充実を得て肉体的にも健康でいられるというものである。このような、スローライフを背景に各地で農業体験ツアーが起き人気を博してしる。京都府綾部市は、農業による新しい生活スタイルを提唱することで、全国から老若男女が訪れている。最近では、台湾や中国本土からも取材に来日し、雑誌に掲載もされている。

このような、農地で農作物を作るビジネスの場と捉えるのではなく、エンターテイメントや観光といった新しい観点から捉えることも重要なのではないだろうか。

2-11.まとめ

WTO, FTA, EPA, TTP とめまぐるしく多国間の貿易協定が変化する中で、日本としても変化していかなければならないことは避けられない。また、そこには国と国との利害関係が存在し、外交上の微妙な駆け引きが必要になってくることも間違いない。そういった中で、一個人として腹にすえておかなければ姿勢は、その変化を直視し目をそらさない事ではないかと思う。アジアを中心とした貿易協定が次々と成立していくと言う流れの中で、これからは今まで以上に人やモノ、お金の流れが活発になってくる。そういった、国の障壁を無くす自由化の流れは、よりアジア経済を活発にさせ厳しい経済状態の中にある日本を救済しうる可能性が大いにある。しかし、気をつけなければならないのは、それによって得する人がいれば損をする人も間違いなくいるという現実である。例えば、TPPが可決されれば農業が大打撃を受けるのは必須である。貿易の自由化によって、多くの産業が可能性を見出せもするが、農業等の血を見なければならぬ産業もまた間違いなく存在する。したがって、世界の大きなダイナミズムを俯瞰的に見ながらも、当事者として変化に対応しながら先を見通しながら行動しなければならない。そういった点で、上記の農業の先進事例は可能性を感じられる。果敢に外国の富裕層向けにビジネスを仕掛けるモノや国内の新しいターゲットや新しいニーズをすくい上げ今までにない付加価値をつけ農業を試みるもの。農家の祖父を持つ自分にとっても非常に参考になり、周りの経済環境がスピード感を持って変わっていく中でも、このような積極的に独自性を創り出しビジネスを展開していく様は、多くの厳しい状況にある産業にとっても参考になるのではないだろうか。

多国間協定を軸にモノの流れを見ていくと、世界の流れがアジアを中心にまわっていく様を感じる事が出来る。

また、日本を含めた各国や企業群のアジアに対する意識が日に日に高まっているのを感じざるを得ない。そして、それを傍で見ているのではなく個人としても意識を高め、行動にしていかなければならないと強く感じるのである。

参考文献：「農業経営者」「ウォール・ストリート・ジャーナル」

アジア太平洋の FTA 競争 ミレヤ・ソリース・浦田秀次郎・片田さおり 勁草書房

21 世紀アジア学 三浦信行 成文堂

Ando and Urata (2007)

The Korean Statistical Information Service <http://kosis.kr/>

OECD.StatExtracts <http://webnet.oecd.org/wbos/index.aspx>

JETRO <http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/>

財務省 <http://www.mof.go.jp/siryoku.htm>

National Bureau of statistics of China, 2007.

経済産業省 http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/apec2010/data/data.html

第3章【カネ】

グローバルスタディーズ学部 2年

星野 一

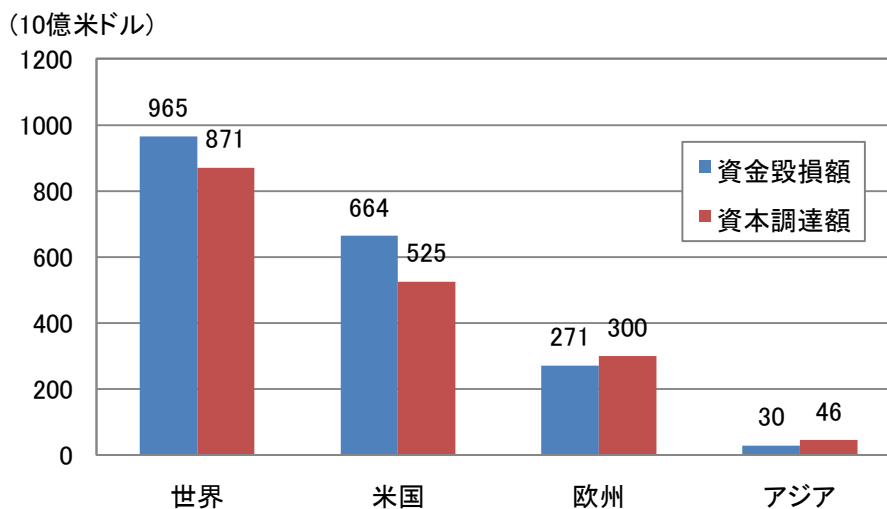
「サブプライム危機の影響」

サブプライム危機は、2007年に起こった米国内の住宅バブルの崩壊による低所得者層向けの住宅ローンの大規模な不良債権化を発端とし、米国のみならず世界中の市場と投資家に不良資産や流動性を欠いた資産の増加というかたちで損害をもたらした。2007年7月から2008年11月までの1年あまりの間に、全世界の銀行が被った関連損失は9,650億ドルに達すると推定されている。その内70%が米国、30%弱が欧州のものであり、サブプライム危機は大半が欧米で発生したものだといえる。金融機関は巨額の不良債権を抱え、金融市場は短期資金の調達が困難になり、破綻や経営困難となる金融機関が相次いだ。サブプライム危機では、他の金融危機に共通する流動性欠如による金融機関と金融システムの危機が広範囲に急速に発生した。

3-1 アジア資本市場には小さな影響

サブプライム危機によるアジアの金融システムへの影響は、アジア通貨危機のものに比べると小さかったといえる。アジア通貨危機は、国内銀行が外貨建ての短期融資を導入して内企業に自国通貨建ての長期融資を行ったことによる、通貨と期間の二重のミスマッチを生じる急激な資本移動に対して、関係各国の金融構造が脆弱であったために引き起こされた。しかし、アジア通貨危機後、域内協力の進展が図られたため、このことがサブプライム危機において抑止力として機能した。また、アジアの金融機関は、サブプライム関連のエクスポージャーが小さかったことも要因として挙げられる。2008年末におけるアジアの金融危機の経済損額は300億ドルで、世界全体が被った損失の内の3%にすぎなかった。また、資産における関連損失の割合も非常に小さなものである。

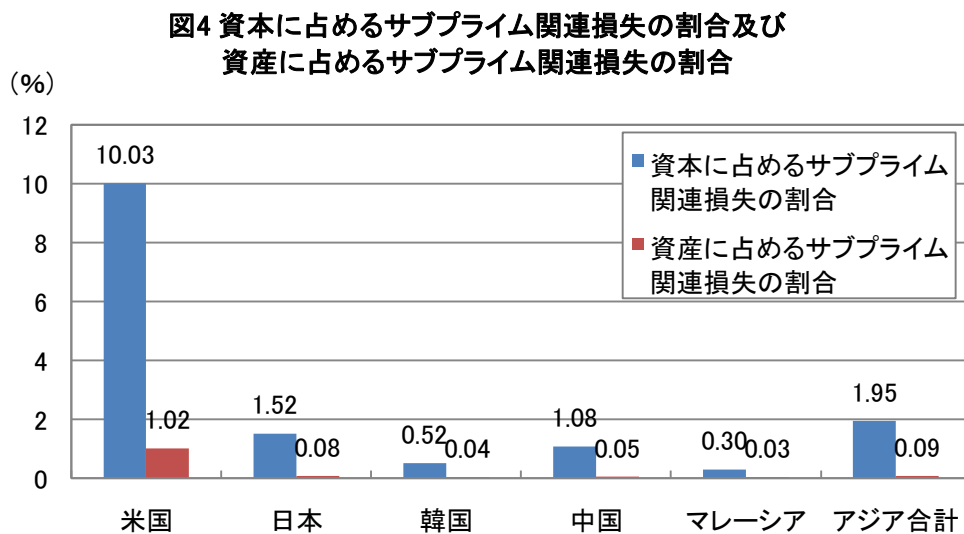
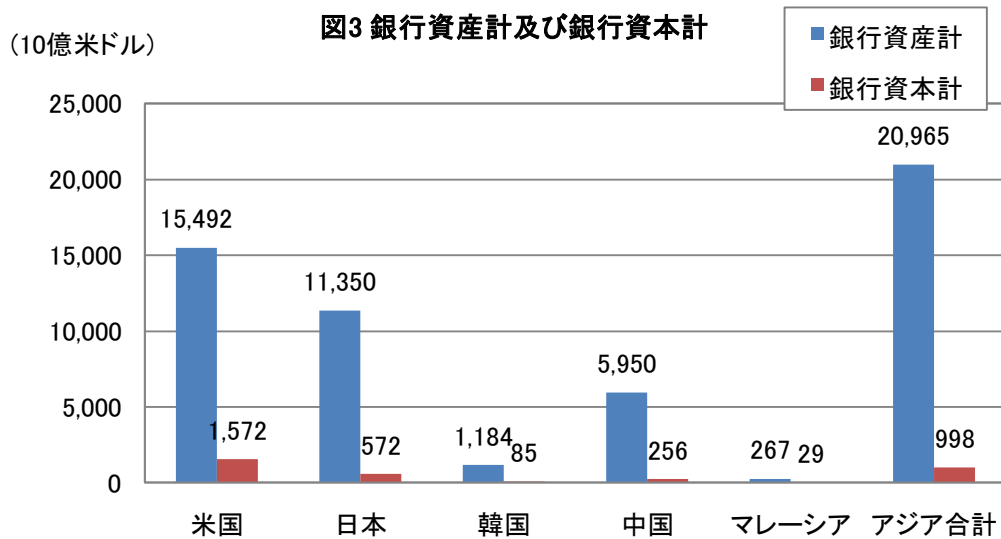
図1 主要銀行の資産毀損額と資金調達額（2008年12月）



出所：川村雄、財団法人日本証券経済研究所「アジア証券市場とグローバル金融危機」 p6

図2 サブプライム関連損失





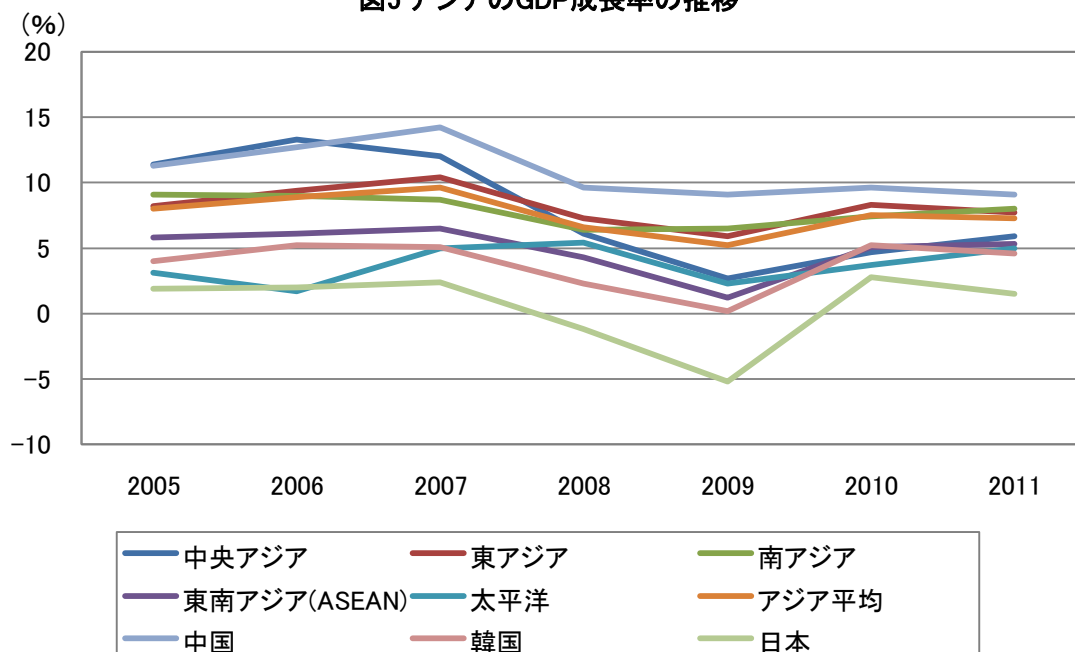
出所：川村雄、財団法人日本証券経済研究所「アジア証券市場とグローバル金融危機」p9
図表 1-2-1 より作成

3-2 アジアの実体経済には大きな影響

サブプライム危機のアジア金融セクターへの直接的な影響は少なかったものの、実体経済には大きな悪影響が生じた。アジア各国の GDP 成長率は 2007 年を境に 2009 年まで下落が続き、厳しい状況にあった。中でも日本への影響は大きく、日本の GDP 成長率は 2007 年の 2%から 2009 年時には-5%と急落した。

しかし、今後の予測値を見てもわかるように、アジア経済は全体的に回復に向かっている。实体经济にこのような悪化が起きた原因は、アジア諸国の多くのが日米欧への輸出に大きく依存しており、先進国の景気低迷と需要減が直撃したためである。

図5 アジアのGDP成長率の推移



(注) 中国は香港を含む

出所: ADB Asia Development Outlook 2010, IME World Economic Outlook Database, October 2010 より作成

「投資の現状」

アジアにおける投資の現状と、日本がアジアへの投資でどのような立ち位置にあるのかを知るために、直接投資と証券投資の2種類の投資の現状を調べた。この2つの投資において、日本の存在はまったく異なることがわかった。

3-3 直接投資で存在感が強い日本

最初に、アジアの直接投資の現状を、域内投資額とその内訳の分析に基づいて確認する。アジア及び ASEAN 域内の直接投資の推移をみると、各地域・国において、投資の規模が共通に拡大し続けていることがわかる。(図6から図9まで参照)しかし、2007年以降はサブプライム危機の影響で日本や欧米諸国からの投資が縮小し、投資額は減少している。アジア域内では海外投資額に比べて対内投資額が大きく、アジア市場は世界で投資先としての存在感を強めている。特に、中国への投資の拡大は目覚ましく、東アジアへの直接投資の半分以上を中国に向けた投資が占めている。金額を見ると、中国への投資だけで ASEAN 全体への投資を凌ぐ程の規模となっていることがわかる。(図7参照)

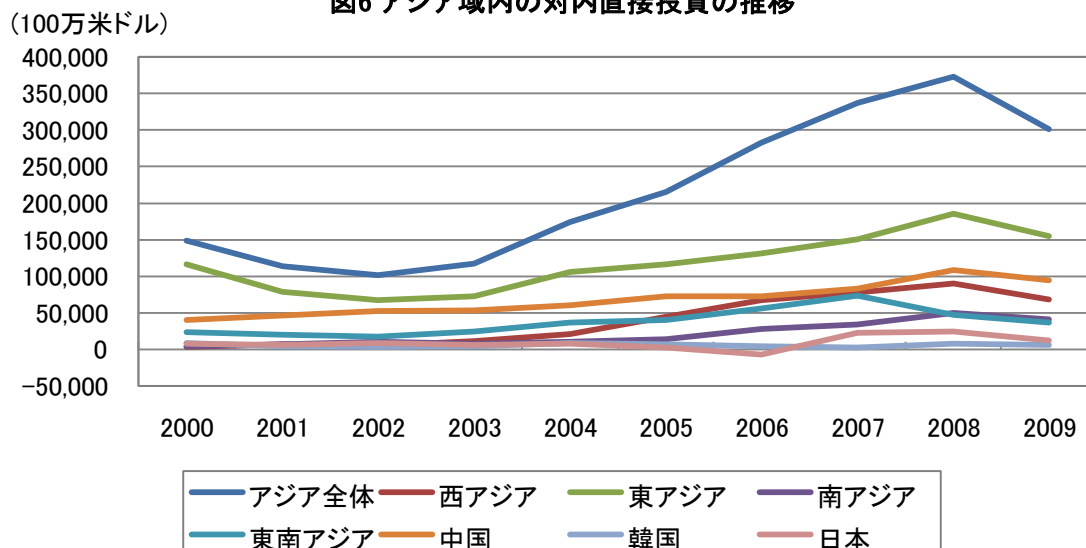
日本は対外直接投資を行う国としてはアジア最大である。日本はアジアへと大規模な直接投資を展開しており、投資元としてアジア域内で重要な存在となっている。日本の対外直接投資額は、2008年は13兆2320億円で、その内の18%の2兆3790億円がアジアへの投資に向けられた。2009年に、日本の対外投資は2008年の半額に近い6兆9896億円へと減少したものの、アジアへの直接投資の比率は28%へと上がり、1兆9427億円が投資された。(図8と図11参照)

日本はアジアの中でも特に、ASEAN+3の対内直接投資において大きな役割を果たしている。(図12参照)日本はASEANへの直接投資において最大の投資元としての位置を維持しており(図13と図14参照)、韓国への直接投資においても、2008年までは最大の投資元であり続け、現在は英国に次ぎ2番目に多く直接投資を行っている。(図15参照)また、日本による中国への直接投資も全体の5%ながら、中国に属する香港を除けば2番目に多い。(図16参照)

各地域及び国ごとの対内直接投資と対外直接投資の額を比較すると、欧米と日本は対外直接投資の額が対内直接投資を上回る傾向にあり、途上国への投資元としての立場にあることがうかがえる。反対に、中国を含むアジアの国々は、全体的に対内直接投資の額が対外直接投資を上回っており、そこから欧米や日本から投資を受けて発展を続けるアジアの姿が見える。また、韓国の立場は2005年を境に、対外直接投資に積極的なものになったことがわかる。(図17から図23参照)

さらにこの比較からは、日本の対外直接投資が対内直接投資を上回る差が、同じ投資元としての立場にある欧米と比べて、大幅に開いていることがわかる。このことは、日本が投資先としては弱い立場にあることを示している。

図6 アジア域内の対内直接投資の推移



(注) 1 アジアは日本を含まない。

2 東南アジアはASEANと東ティモールの合計

図7 ASEAN+3の対内直接投資の推移

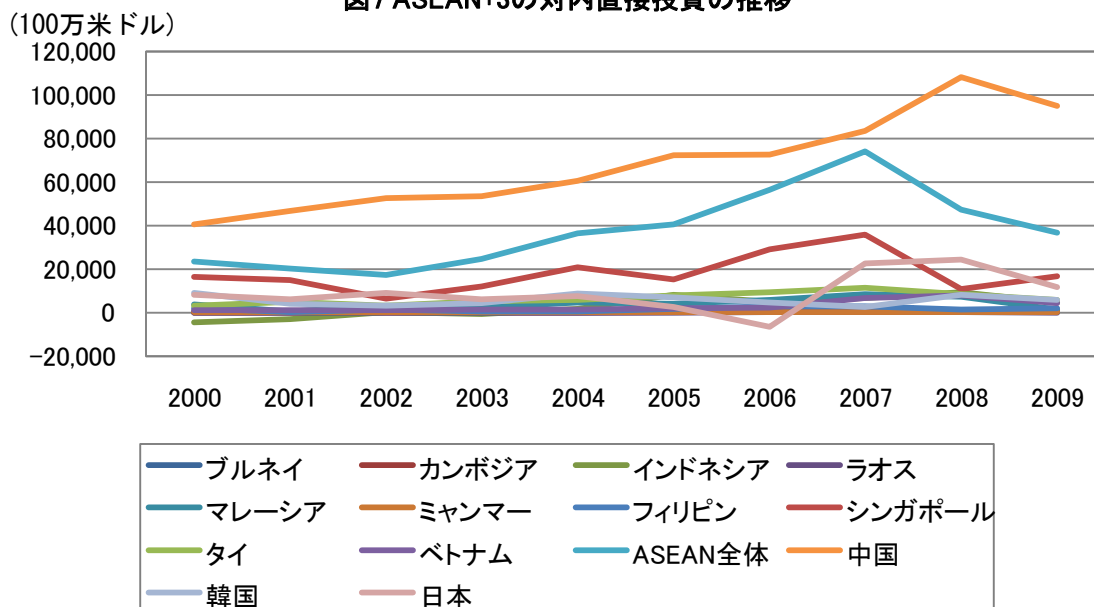
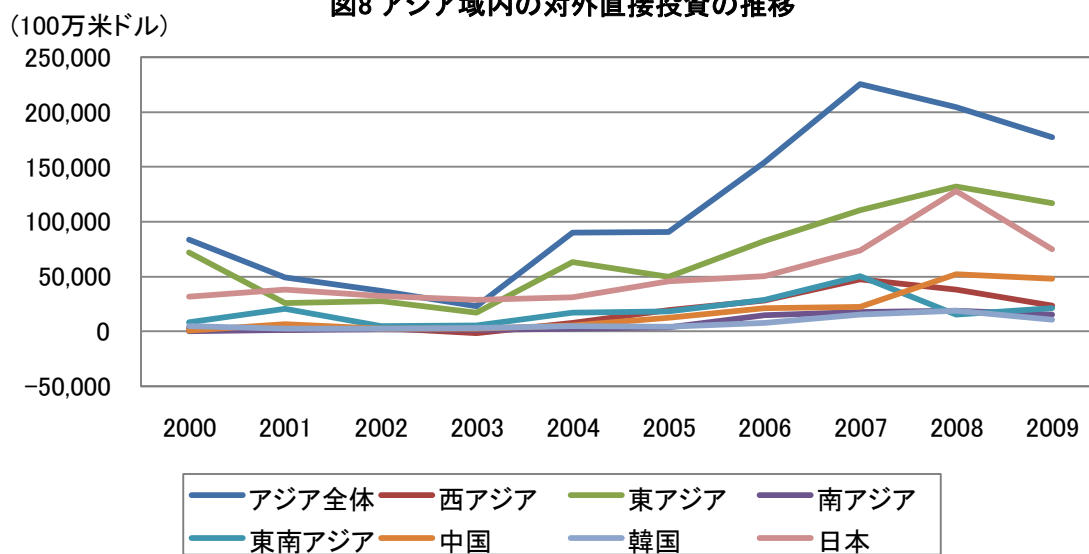


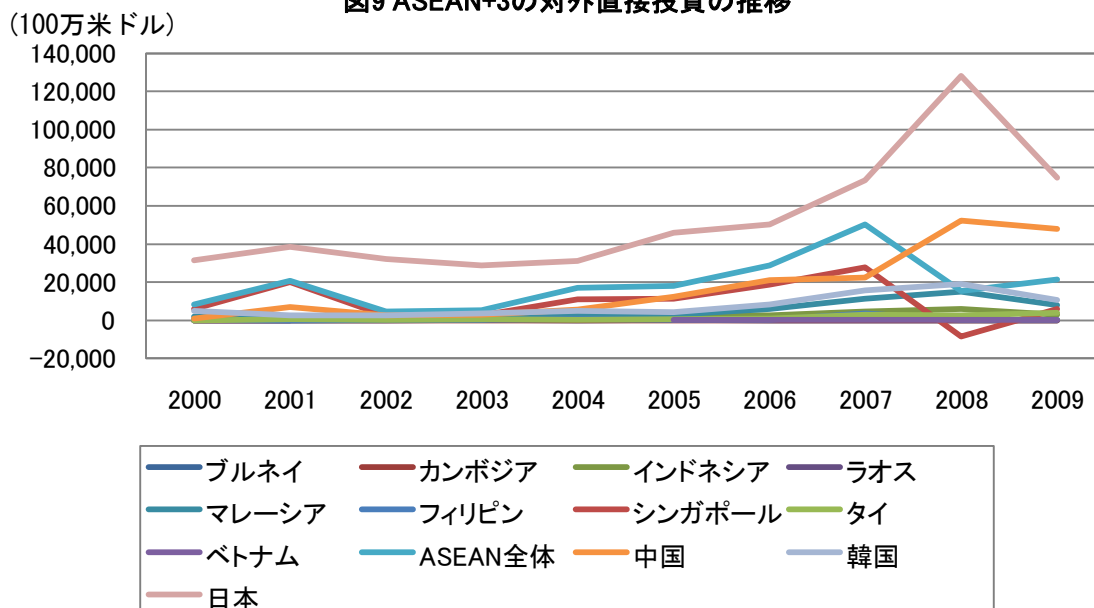
図8 アジア域内の対外直接投資の推移



(注) 1 アジアは日本を含まない。

2 東南アジアは ASEAN と東ティモールの合計

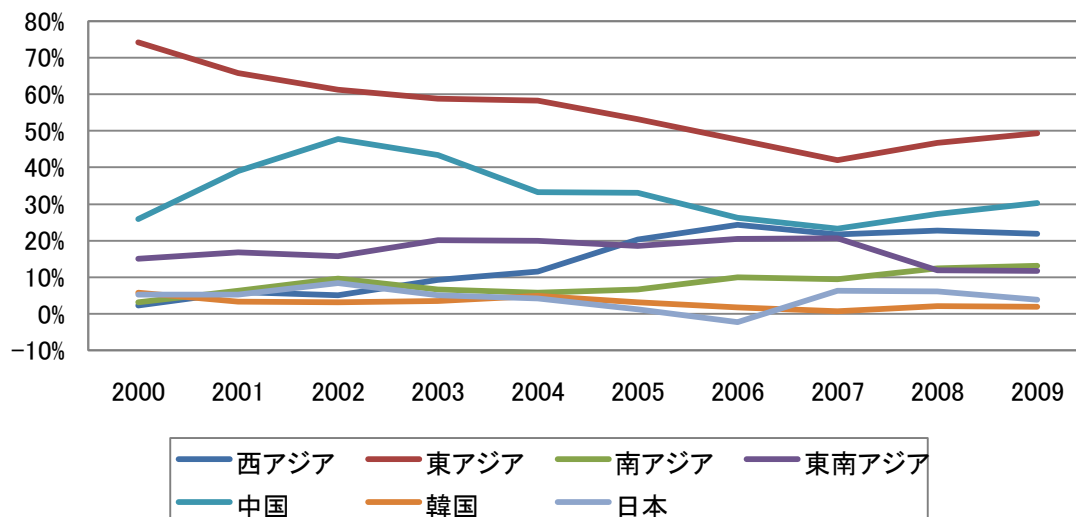
図9 ASEAN+3の対外直接投資の推移



(注) ラオスは対外投資を行っていないので除外

出所: UNCTAD, FDI/TNC database より作成

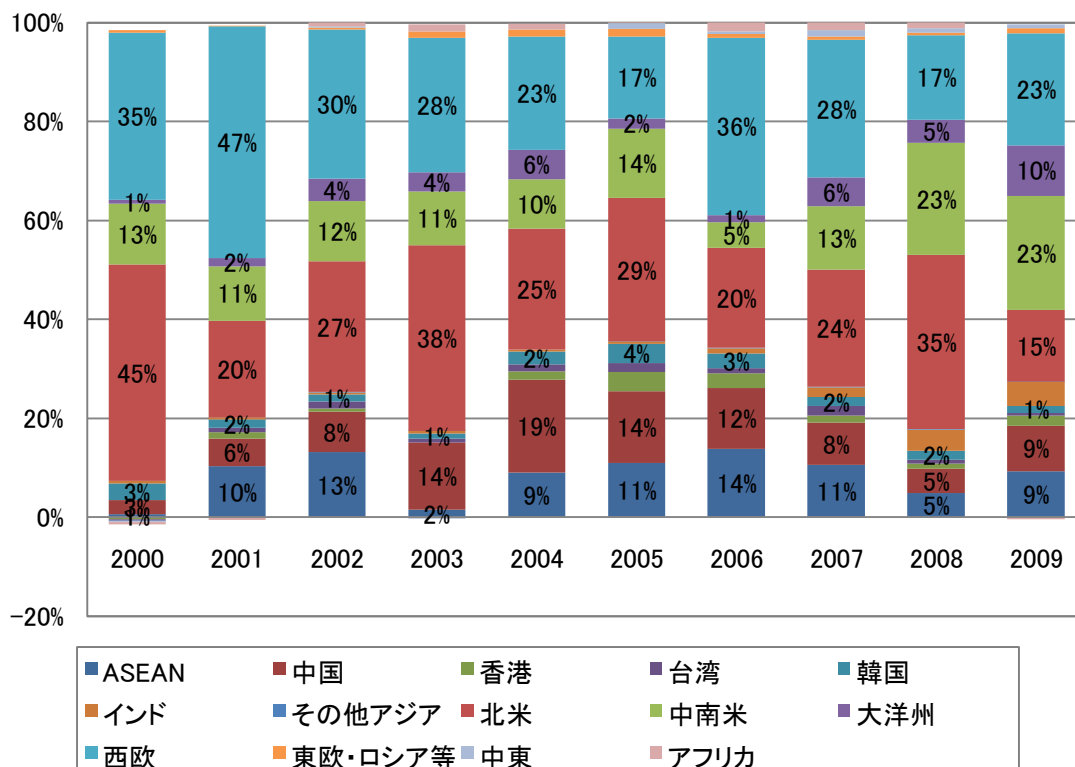
図10 アジア各地域・国の対内直接投資の対比



(注) 東アジアは日本を含まない

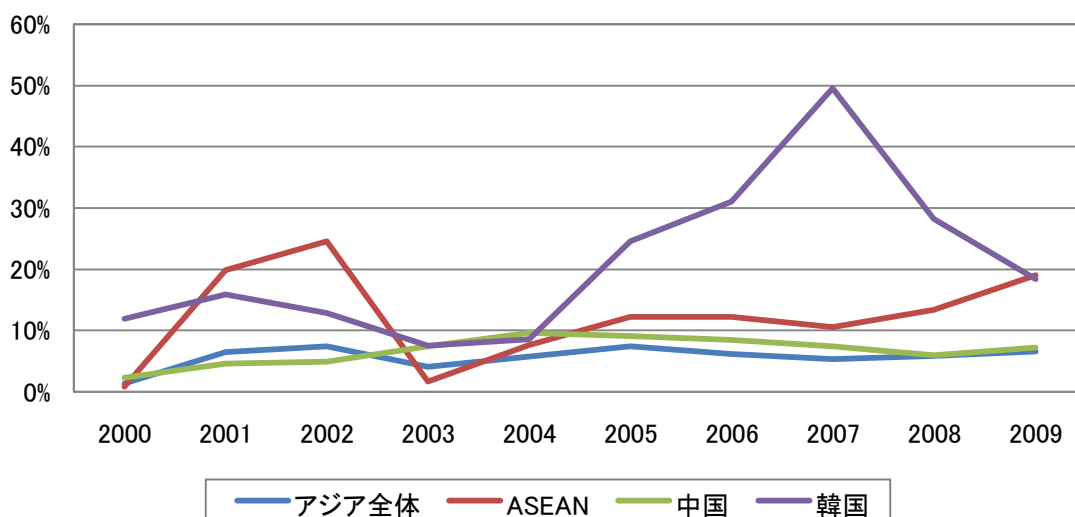
出所: UNCTAD, FDI/TNC database より作成

図11 日本の対外直接投資の内訳



出所：JETRO 国地域別情報 日本 統計より作成

図12 各地域・国の対内直接投資に占める日本からの直接投資の割合



出所：UNCTAD, FDI/TNC database, JETRO 国地域別情報 日本 統計より作成

図13 ASEANへの直接投資の内訳
1999-2008年

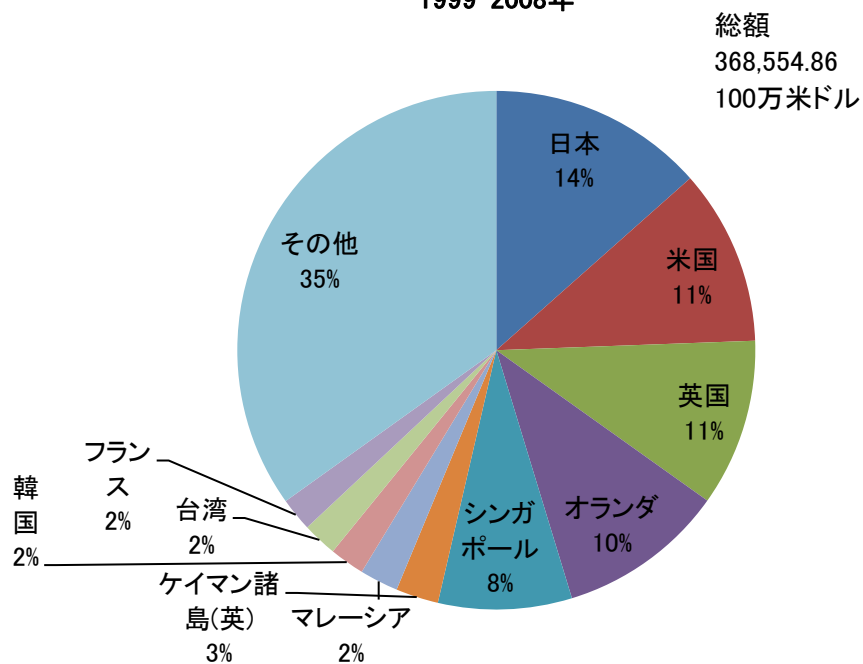
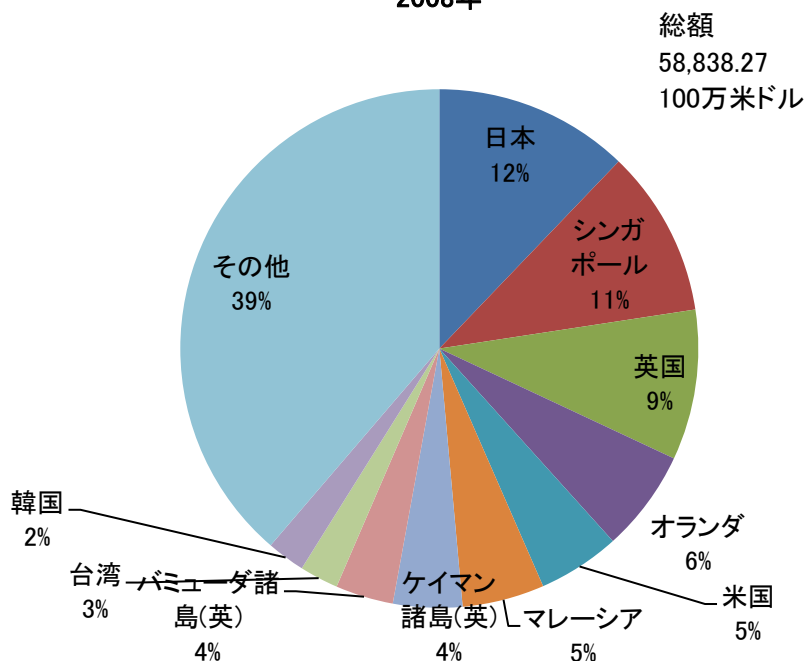
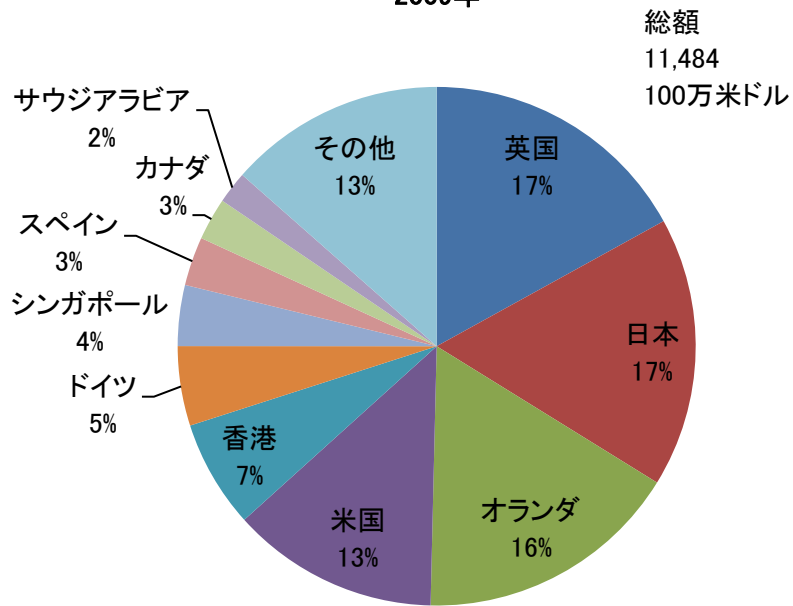


図14 ASEANへの直接投資の内訳
2008年



出所：日本アセアンセンター ASEAN 日本統計集より作成

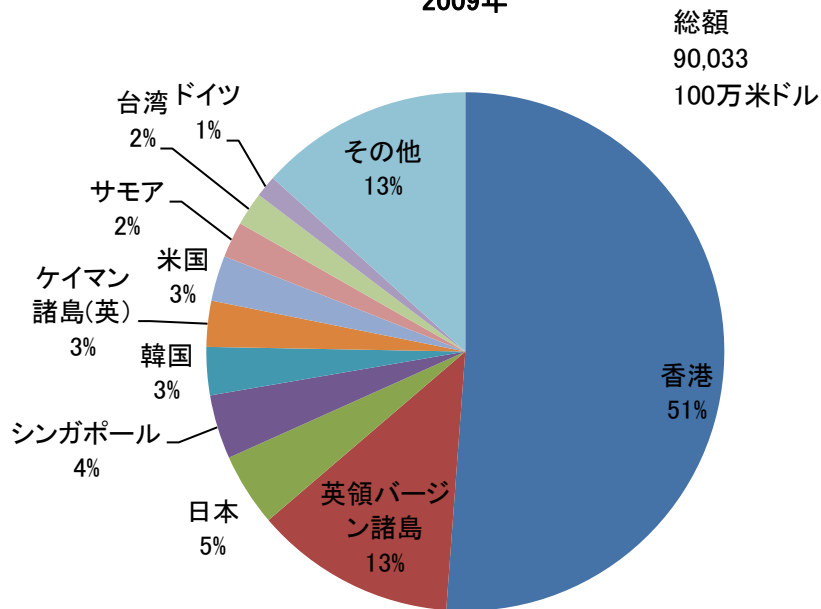
図15 韓国への直接投資の内訳
2009年



(注) 申告ベース

出所: JETRO 国地域別情報 韓国 統計より作成

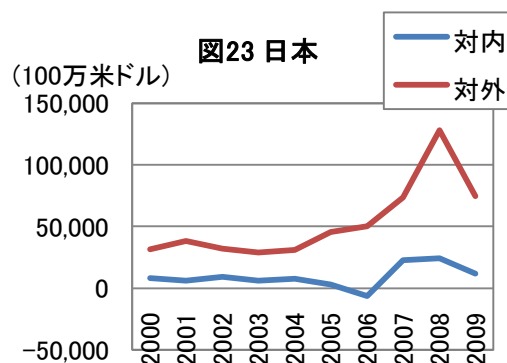
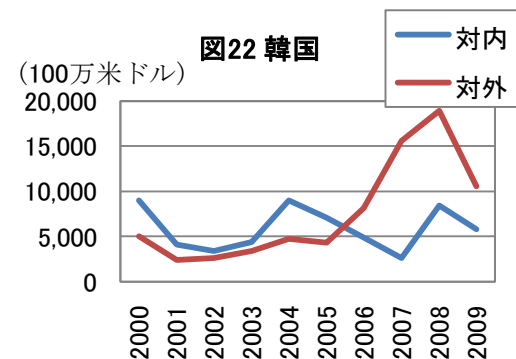
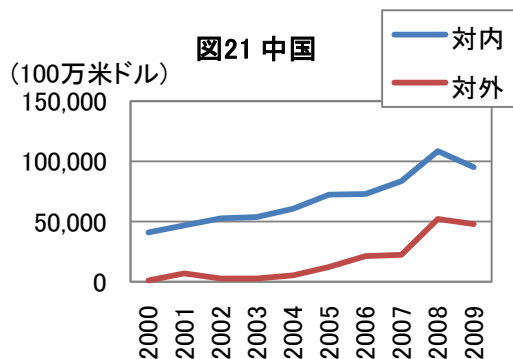
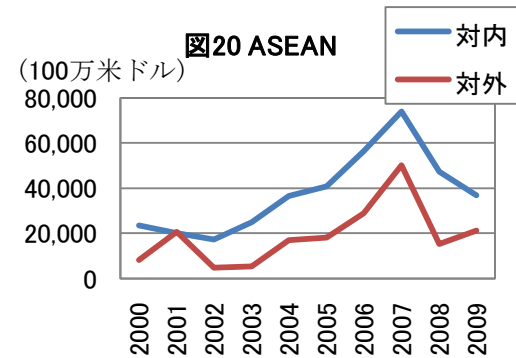
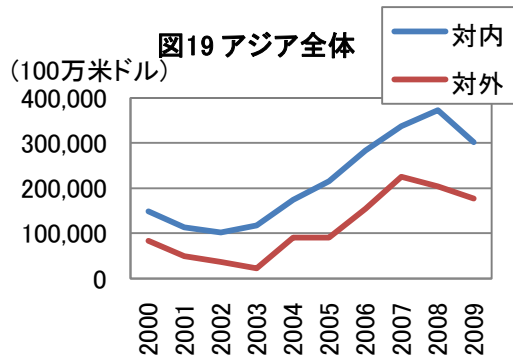
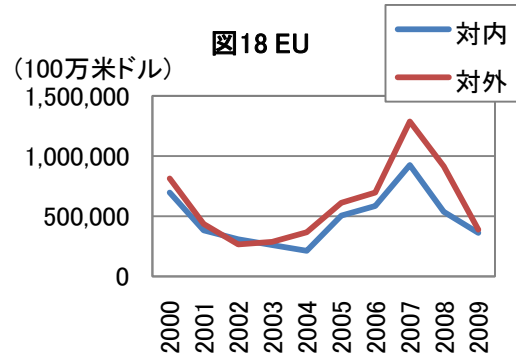
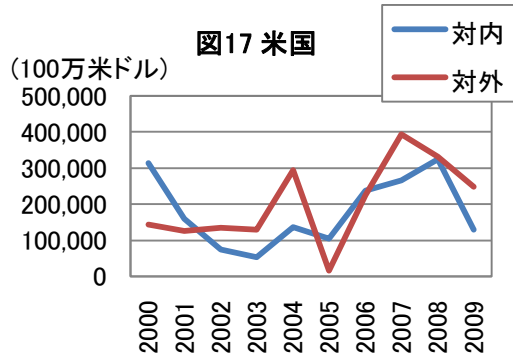
図16 中国への直接投資の内訳
2009年



(注) 金融分野の投資を除く

出所: JETRO 国地域別情報 中国 統計より作成

図 17～図 23 各地域・国ごとの対内直接投資と対外直接投資の比較



出所: UNCTAD, FDI/TNC database より作成

図 24 ASEAN+3 諸国の対内外直接投資

2000年 (100万米ドル)

対外直接投資

対内直接投資

国名

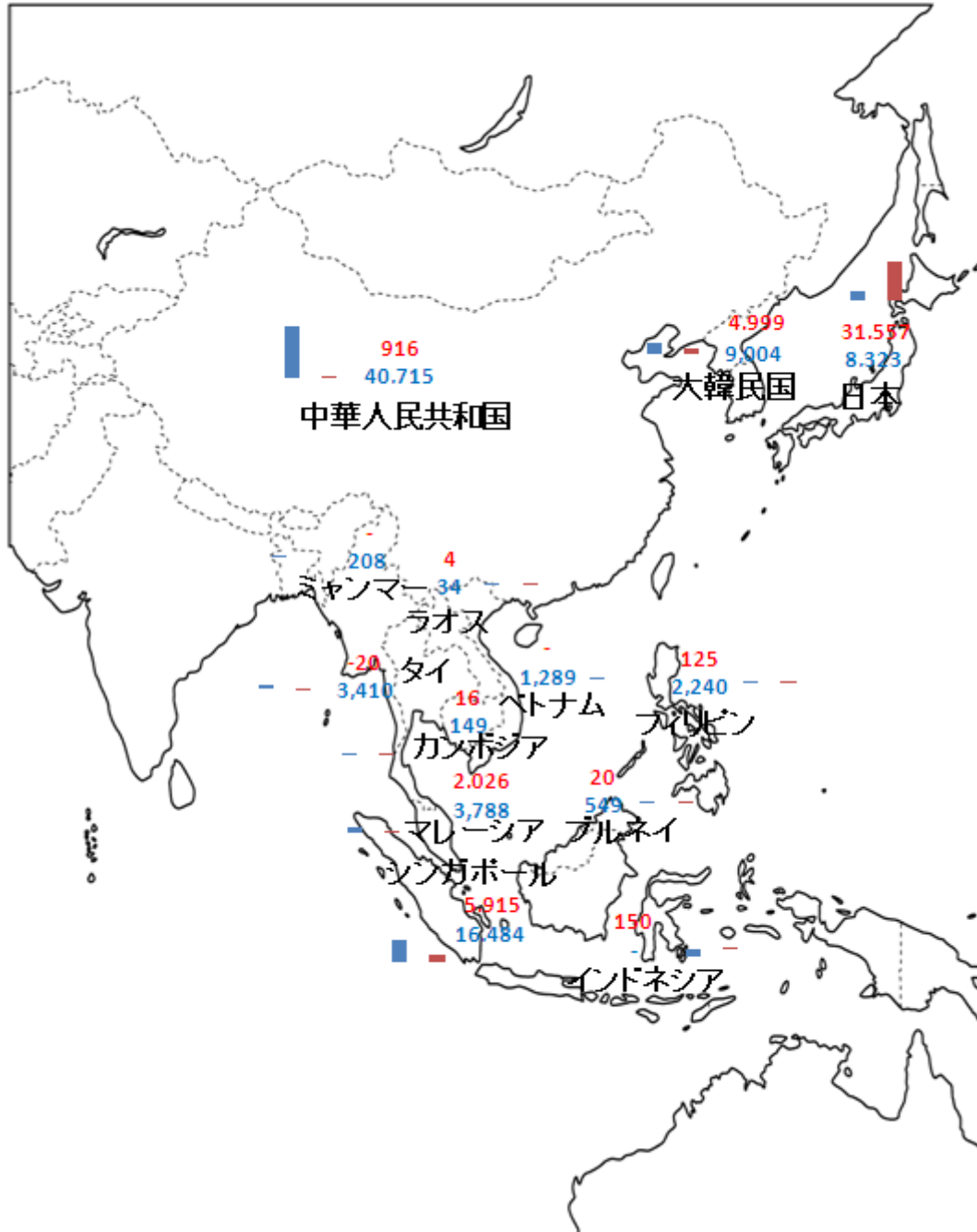
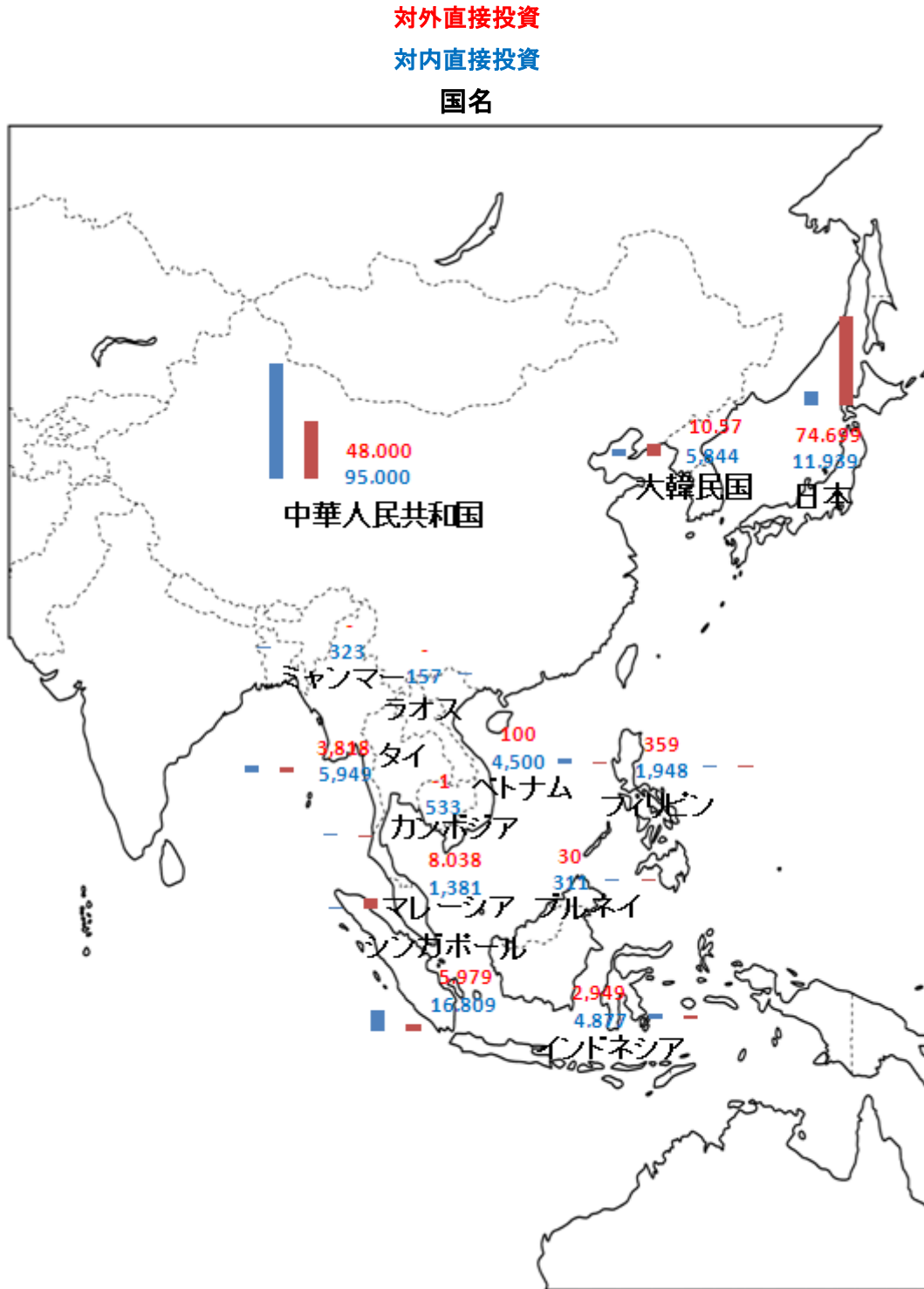


図 25 ASEAN+3 諸国の対内外直接投資

2009 年 (100 万米ドル)



出所: UNCTAD, FDI/TNC database より作成

3-4 直接投資の減少は経済発展に悪影響

直接投資は、投資先の国において健全な競争社会を実現し、投資元の国からの経営資源の移転や新技術・新システムの導入を通じて経済発展をもたらす。具体的には、主に優れた経営ノウハウの移転・創造、新技術の創造、雇用機会の創出、人材の流動化、消費者利益の増大、多面的な国際経済関係の構築などが挙げられる。

アジアは対内直接投資の増加により経済の発展を促進させてきたが、サブプライム危機の影響による海外資本の流出に伴う対内投資額の減少は、この経済発展の度合いを縮小させる恐れがある。実際に、アジア域内国では海外依存度の高かった製造業、建設、サービス産業に大きな影響があり、中国では 2000 万人の失業者が発生したものと伝えられている。

投資先の国にとっての利点である、経営資源や新技術・新システムの流入は、手のひらを返せば投資元の国からの産業の流出である。他国と比べ、対外直接投資が対内直接投資を大幅に上回っている日本の直接投資の現状からは、産業の海外移転に伴う国内産業の空洞化が懸念される。この国内産業の空洞化は、日本に経済規模の縮小や雇用喪失をもたらす恐れがある。現在の日本に必要なのは、対外直接投資と対内直接投資の釣り合いを取ることである。他のアジア諸国が経済発展に伴い投資先としての魅力を増すにつれ、海外の投資家や企業の関心は日本から離れつつある。今後、日本に求められることは、国際的な競争に打ち勝ち得る投資環境の整備である。

3-5 証券投資で存在感が弱い日本

本項では、ASEAN+3 の国際証券投資の現状を、域内投資額とその内訳の分析に基づいて確認する。ASEAN+3 域内の国際証券投資受入額の推移をみると、サブプライム危機の影響が直接投資への影響よりも早く表れており、2008 年に投資額が地域全体で減少していることがわかる。これは、危機により ASEAN+3 から資金を引き上げる動きがあったためである。(図 26 参照)株式投資と債券投資を分けてみると、株式投資への影響は大きく、2008 年に株式投資受入額は全体的に大きく減少したものの、債券投資への影響は小さく、債券投資受入額の減少は軽微なものであった。また、2009 年には両方の投資の受入額は再び増加しており、ASEAN+3 の国際証券投資の動きが回復しつつあることがわかる。(図 27 参照)

2009 年の世界全体の国際証券投資受入額のうち、ASEAN が占める割合はわずか 1.1%にすぎない。さらに、株式と債券に分類すると、株式は 1.8%、債券は 0.5%である。2009 年の世界全体の国際証券投資受入額の内訳をみると、株式投資受入額が 14 兆ドル、債券投資受入額が 23 兆ドルで、債券投資が株式投資を上回っているが、ASEAN は逆になっている。これは、新興国市場では債券市場が脆弱であり、主として投資対象となるドル建て債の場合は発行体が高い格付をもつ優良企業、政府や政府機関／企業に限られるためである。

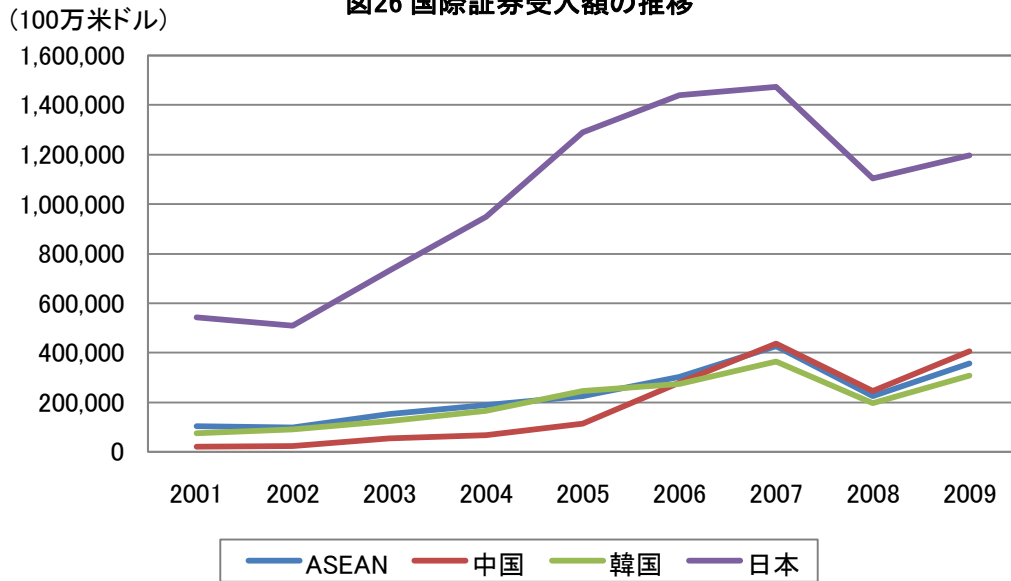
それでも、ASEAN の世界の国際証券投資受入額に占める割合は、株式を中心に少しずつ伸びている。しかし、世界全体の割合は株式が 2006 年に、証券投資が 2009 年に中国に抜かれた。(図 28 参照)

2001 年を基準とした証券投資受入額の増加率をみると、2009 年に ASEAN が 3 倍強、中国が 20 倍、韓国 4 倍で、それぞれ 3 倍にわずかに達しない世界を上回る勢いで増加している。中国は株式投資受入額の増加率が飛び抜けて高く、2009 年には 28 倍となっており、中国の存在感は増大している。一方、日本の 2009 年の増加率は 2 倍と、世界を下回っている。(図 29 参照)

ASEAN+3 の国際証券投資の投資元の内訳をみると、欧米の存在が大きいことがわかる。株式投資の投資元の内訳では米国の存在が際立っている。米国からの投資は、ASEAN で 38%、中国で 27%、韓国で 46%、日本で 51%を占め、ASEAN+3 で最大の投資元となっている。また、EU 全体からの投資は米国に次いで大きい。日本からの投資は ASEAN で 4%、中国で 3%、韓国で 2%とわずかである。(図 30 参照)

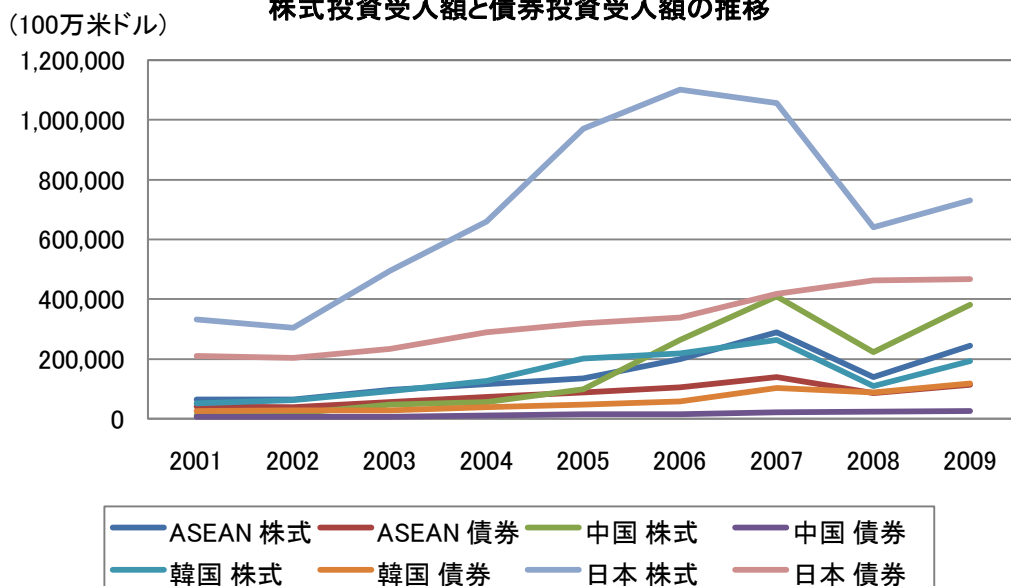
債券投資の投資元の内訳では、EU からの投資が ASEAN で 34%、韓国で 30%、日本で 42%を占めており、EU は香港の投資が 64%を占める中国を除いて、ASEAN+3 において最大の投資元となっている。また、ASEAN+3 の債券投資の特徴として、シンガポールが多くの投資を行っていることが挙げられる。シンガポールの投資が占める割合は、国別にみると、ASEAN で 2 位の 14%、韓国で 1 位の 15%である。日本からの投資は、ASEAN で 9%、中国で 2%、韓国で 7%と、日本の存在は債券投資においても小さい。しかし、日本からの投資が占める ASEAN と韓国への債券投資の割合は、株式投資と比較すると倍以上である。これは、リスク商品である株式による新興国市場への投資には、日本の投資家は欧米と比較して抵抗感が強いものの、日本の金融機関にとって、円や米ドル建てソブリン債やそれに準ずる債権は、機関投資家を中心に確実に需要が見込めるからである。(図 31 参照)

図26 国際証券受入額の推移



出所：IMF Cooperated Portfolio Investment Survey より作成

株式投資受入額と債券投資受入額の推移



出所：IMF Cooperated Portfolio Investment Survey より作成

図 28 世界の国際証券投資受入額に占める ASEAN+3 の割合

(単位: %)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
ASEAN	0.8	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9	1.1	0.7	1.0
株式	1.2	1.3	1.4	1.3	1.3	1.4	1.7	1.4	1.8
債券	0.5	0.4	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5
中国	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.8	1.1	0.8	1.1
株式	0.3	0.3	0.7	0.6	0.9	1.9	2.4	2.3	2.8
債券	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
韓国	0.6	0.6	0.7	0.7	1.0	0.8	0.9	0.6	0.8
株式	1.0	1.3	1.3	1.5	1.9	1.5	1.5	1.1	1.4
債券	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5
日本	4.3	3.6	3.8	4.1	5.0	4.4	3.8	3.6	3.2
株式	6.4	6.3	7.1	7.6	9.2	7.8	6.2	6.6	5.3
債券	2.8	2.2	1.9	2.0	2.1	1.8	1.9	2.2	2.0

出所: IMF Cooperated Portfolio Investment Survey より作成

図 29 国際証券受入額の増加率 (2001 年を 100 とした場合)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
世界	100	111	150	183	204	259	307	242	292
株式	100	92	134	168	204	273	329	188	263
債券	100	124	161	194	204	250	292	278	312
ASEAN	100	95	148	182	216	292	412	216	343
株式	100	99	152	180	211	310	452	218	381
債券	100	95	141	184	222	261	349	214	287
中国	100	113	267	331	567	1,378	2,153	1,217	2,009
株式	100	124	346	420	746	1,982	3,077	1,675	2,874
債券	100	90	102	161	223	221	305	328	378
韓国	100	117	163	216	322	358	475	257	402
株式	100	118	179	245	387	420	508	212	370
債券	100	114	111	156	185	230	412	351	470
日本	100	94	135	175	238	265	272	204	221
株式	100	92	149	198	292	331	318	193	220
債券	100	97	111	138	153	161	199	221	222

出所: IMF Cooperated Portfolio Investment Survey より作成

図 30 ASEAN+3 への国別株式投資額の内訳 (2009 年)

(単位: %)

投資元 \ 投資対象国	投資対象国											
	カンボジア	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム	ASEAN 合計	中国	韓国	日本	
米国	—	34.6	32.4	52.7	44.0	29.5	6.9	37.9	26.6	45.8	50.8	
EU 合計	1.8	27.7	27.7	28.6	29.9	32.7	19.4	29.5	19.8	38.1	33.9	
英国	—	6.7	10.5	10.3	9.8	9.6	14.6	9.4	5.2	15.1	15.1	
ルクセンブルグ	—	11.2	7.5	8.3	7.6	13.3	0.7	9.2	9.2	9.6	5.6	
オランダ	—	2.8	2.1	2.1	4.7	3.5	0.6	3.6	1.3	3.2	2.8	
アイルランド	◎	2.9	3.7	4.0	3.2	2.7	◎	3.2	◎	4.1	3.1	
フランス	N/A	1.1	1.4	1.3	1.3	0.8	2.6	1.2	2.3	2.9	3.2	
ドイツ	—	0.9	0.4	0.4	1.4	1.0	—	1.0	0.7	1.0	1.4	
その他	1.8	2.1	2.0	2.0	1.8	1.9	0.8	1.9	1.2	2.1	2.7	
シンガポール	N/A	6.5	15.8	5.2	N/A	6.9	9.2	5.2	4.1	3.4	2.1	
日本	—	1.5	1.6	1.4	5.9	2.4	0.8	3.5	3.3	2.3	N/A	
香港	—	0.4	2.4	1.8	3.9	1.4	1.7	2.4	35.1	1.0	0.8	
モーリシャス	36.8	4.6	0.4	0.0	3.5	2.2	15.1	3.0	2.7	0.0	0.0	
その他	61.4	24.7	19.8	10.2	12.9	24.9	47.0	18.5	8.3	9.4	12.5	

◎: 秘匿性のため非公開

(注) 1 オランダはオランダ領アンティルを含む

2 ブルネイ、ラオス、ミャンマーへの投資は規模が小さいため記載を省略

出所: IMF Coordinated Portfolio Investment Survey より作成

図 31 ASEAN+3 への国別債券投資額の内訳 (2009 年)

(単位: %)

投資元 \ 投資対象国	カンボジア	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ	ベトナム	ASEAN 合計	中国	韓国	日本
米国	--	27.1	21.1	18.3	22.6	20.5	14.6	22.3	2.6	14.4	7.3
EU 合計	56.9	32.0	36.7	35.0	33.5	29.3	51.1	34.4	18.6	30.3	42.3
英国	--	3.5	8.5	2.2	8.6	2.2	38.0	6.5	8.7	8.6	11.4
ルクセンブルグ	53.0	15.8	10.8	9.0	10.5	7.1	5.3	11.4	4.1	7.5	5.1
オランダ	3.9	4.6	6.0	5.0	1.4	7.0	1.7	4.3	2.1	0.9	0.6
アイルランド	◎	1.0	0.9	3.3	4.7	1.8	◎	2.3	◎	3.7	4.6
フランス	N/A	1.2	6.5	4.9	3.7	3.5	1.0	4.0	1.5	5.1	17.4
ドイツ	--	2.2	2.5	3.7	1.5	4.6	2.9	2.5	1.1	2.1	1.4
その他	--	3.7	1.5	7.0	3.2	3.0	2.2	3.4	1.1	2.5	1.7
シンガポール	N/A	25.9	17.0	8.4	N/A	21.5	12.6	13.5	5.8	15.2	1.7
日本	--	6.7	7.8	8.4	13.5	11.7	2.0	9.2	2.0	7.2	--
香港	--	1.2	13.1	4.0	13.2	7.2	16.8	8.7	63.8	13.3	2.6
モーリシャス	N/A	3.2	0.4	0.0	4.1	1.5	1.8	2.0	1.1	0.0	N/A
その他	43.1	3.8	3.9	25.9	13.1	8.3	1.1	9.9	6.2	19.4	46.1

◎: 秘匿性のため非公開

(注) 1 オランダはオランダ領アンティルを含む

2 ブルネイ、ラオス、ミャンマーへの投資は規模が小さいため記載を省略

出所: IMF Coordinated Portfolio Investment Survey より作成

「アジア域内協力」

アジア通貨危機の際に、新興国の金融・経済の危機対策への無防備さが明らかとなって以来、アジアでは域内協力を通して各国の金融システムを強化する試みが始まった。アジア通貨危機後から現在までに、アジア諸国は金融システムの発展により、世界に対する存在感を強めることに成功した。

3-6 脆弱であったアジアの金融体制

1997年のアジア通貨危機当時の世界経済は、日米欧がリーダーシップをとっており、アジア経済は未開であるという見方が強かった。アジアの成長は欧米に依存しており、金融体制は脆弱なものであった。したがって、アジア諸国は資本の急激な流出に対して打つ手がなく、アジア危機後の対応はIMFスタイルに従わざるをえなかった。

アジア通貨危機後、アジアでは金融システムの強化と長期的な発展を意図したさまざまな検討が実施された。しかし、日本が提唱したアジア基金構想(AMF)が米国と中国の反対で頓挫するなど、アジアの自律的な対応は、国際政治・経済力学上の諸要因や、アジア域内の複雑な利害関係からも進展が難しい状態にあった。その中で、2000年春のチェンマイ・シニアティブ合意以降は、順応性のある債券市場の構成を中心とする試みが成果を挙げてきた。

3-7 存在感を強めたアジア

2008年のサブプライム危機では、新興国の存在感が著しく高まった。グローバル危機を解決するために、先進国側と新興国側とが互いに協力して対策の策定・実行にあたるべきである、という認識が国際標準の判断軸になり、G20諸国が危機対応に協調した。このことは、アジア通貨危機当時と比べて、中国などの新興国の存在が強まったからである。

その理由としては、①新興国の経済力の向上に伴い国際政治上の発言権が強まったこと、②サブプライム危機が米国での欧米型金融ビジネスモデルの破綻により引き起こされたこと、③危機からの回復には、世界経済の牽引頭となっている新興国の存在が大きいこと、④その反面、新興国の経済成長は先進国の消費・需要に支えられており、金融危機が実体経済危機に及ぶと新興国経済にも深刻な影響を与えること、⑤現在のグローバル経済は、原油などの一次産品や穀物・食糧の取引から高度な金融技術の活用までが高度な情報・取引・決済システムの発展によって同一平面上でおり、これらの取引等には先進国と新興国が入り乱れて参加しているグローバル取引の時代になっていること、の5つが挙げられる。

この現在の動きのなかで、特に注目されている事柄がチェンマイ・イニアシアティブ(CMI)の拡充である。アジア危機は、先進諸国等の資本投下が盛んに行われていた新興国が、急速な資本流出に見舞われて対外支払いが困難になることで引き起こされた。2000年5月には、ASEAN+3諸国は、ASEAN域内の資金フローに関する情報・データ交換を促進する目的で、既存の域内でのスワップ・アレンジメントを新規加盟国まで拡大するとともに、ASEAN+3相互の二国間の通貨スワップとレポ取決めを締結した。通貨スワップ協定は、自国の通貨の暴落などの緊急事態に際し、協定を結んだ相手国から自国の通貨と引き換えに米ドルなどの外貨の融通を受ける協定で、レポ取決めは、信用度・流動性の高い証券を見合いに、相手国から米ドルなどの外貨の供給を受ける取決めである。チェンマイ・イニアシアティブの合意により、アジア諸国は金融・経済危機に域内で協力して対応する体制を築き、そして現在、この体制のよりいっそうの強化に向けた取り組みを行っている。

CMIは発足後発動されたことはないが、その規模と範囲、機能は次第に拡充され、2009年2月にはスワップ枠の総額を50%とし、域内の経済・金融・為替監督の一元化を図るとともに、二国間取り決めから多国間の意思決定を一か所で行う体制づくりに合意した。さらに同年5月には、総額1,200億ドルのうち80%を日中韓の三カ国で負担し、監視活動のための専門家会合を実施することが決められた。

アジア金融システムの発展 (2003～2009 年)

2003 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ EMEAP(東アジア・オセアニア中央銀行役員会議)が1億米ドルのアジア債券ファンド1号(ABF1)の創設を発表。 ・ ASEAN+3 によりアジア債券市場育成イニシアティブ(ABMI)がスタート。
2004 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイ企業 Tri Petch Isuzu Sales 発行のタイバーツ債への国際協力銀行(JBIC)の保証。 ・ 韓国中小企業の CDO 発行に係る JBIC と韓国中小企業銀行による保証。 ・ アジア開発銀行(ADB)と国際金融公社(IFC)がマレーシアリングット建て(4億リングット)債券を発行。 ・ EMEAP が域内通貨建ての ABF2 の設定を発表。
2005 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ABMI の行程表(roadmap)を公表。 ・ ABF2 の設定。
2007 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェンマイ・イニシアティブのスワップ枠が800億ドルに拡大。
2008 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融規制にかんする ABMI の第二次行程表が公表される。 ・ ASEAN+3 は経済レビュー・政策対話の一環として経済状況・金融状況に関するモニタリングを行うことで合意。
2009 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェンマイ・イニシアティブ(CMI)のスワップ枠を800億ドルから1,200億ドルに拡大。 ・ 独立した一元的域内監視組織の創立。 ・ アジア開発銀行の資本増強。 ・ CMI のマルチ化に合意。 ・ 域内通貨建て債券発行を促進するための信用保証と投資手法としてアジア開発銀行による5億ドルの信託基金設置。 ・ アジア開発銀行によるタイにおけるラオスのクロスボーダー債券発行の支援。

出所：川村雄、財団法人日本証券経済研究所「アジア証券市場とグローバル金融危機」 p22,

図 33 新しいチェンマイ・イニシアティブの枠負担

	金額	シェア
日中韓	960 億ドル	80%
日本	348 億ドル	32%
中国	348 億ドル	32%
韓国	192 億ドル	16%
インドネシア	47.6 億ドル	4%
マレーシア	47.6 億ドル	4%
シンガポール	47.6 億ドル	4%
タイ	47.6 億ドル	4%
その他諸国	49.6 億ドル	4%強
合計	1200 億ドル	100%

出所：川村雄、財団法人日本証券経済研究所「アジア証券市場とグローバル金融危機」 p23

3-8 まとめ

域内協力のさらなる推進を

アジアへのサブプライム危機の影響は 2 点に総括できる。第一は、金融面の悪影響は相対的に軽微であったこと、第二は実体経済面では深刻な不利益を被ったことである。このことから、特に後者により、域内各国の多くが過度に外部重要依存型の貿易偏重モデルである点のリスク、経済の脆弱性という新たな問題が浮上した。

域内各国の課題としては、今後の内需拡大・振興策をとりつつ、域内の貯蓄を使い域内投資の活性化を図ることで、欧米などの域外金融市場の変動の影響を受けにくい金融構造を作り上げることが挙げられる。

こうした実態経済の改革には、関係各国の政府対応のみならず、域内金融協力のさらなる推進が今まで以上に重要である。チェンマイ・イニシアティブがその代表格であるが、今後はさらなる域内全体の協力体制を築き上げ、強化推進をすることが望ましい。また、域内各国は自国市場の整備を継続して進めていくことが必要であるが、現地通貨建て債券市場の構築は、国の経済規模等の制約もあり、一国だけの努力で達成できるものではない。そのため、やはり域内協力による金融市場の発展が大きな意味合いを持っていると言える。

日本は証券投資の拡大、域内諸国との連携を

「3-2. 投資の現状」で触れたように、日本のアジアへの投資は、直接投資においては活発なもの、証券投資においては消極的である。また、アジア諸国の証券市場は成長度合いを増しているものの、多くはまだ未発展であり、世界の証券投資市場における存在感は中国を除いて決して強いとはいえない。

そして、アジアの投資の現状は、直接投資も含め、域内諸国間の投資の割合が他の経済共同体に比べて著しく低く、主に域外諸国からの投資が主たるものとなっている。この域内投資が不活発な状態が改善されなければ、今後もアジアの金融市場は域外金融市場の情勢に左右され続けてしまう。

日本は個人部門だけでも約 15 兆ドルの金融資産を有している。さらに、世界全体における日本からの証券投資額は世界 4 位である。そのため、日本からの投資をアジアへと向けることが、アジアの域内投資を活気づける上で大きな要因だといえる。近年、日本からのアジアへの証券投資は伸びつつあるものの、絶対水準が低すぎる。日本からの投信を通じた証券市場の域内投資の活発化には、域内側と日本側との両方の対応が求められている。そのためには、日本とアジア諸国とが、域内金融市場の向上や、日本国内における情報提供機会の拡大などを実現するために、域内協力を通じていっそう連携を深めることが必要不可欠である。

3-9 感想と今後の課題

感想

この一年間の、アジア経済班の研究活動を通じた知識の共有は、私にとって新しい刺激に満ちていた。研究を進めることで、以前はおぼろげながらにしか見えていなかったアジアの姿が、目を追うごとにはっきりと目に映るようになる様はとても刺激的であった。また、その過程で、日本とアジア諸国の関係には課題が数多く存在し、そして、それがどれも一筋縄では行かないものばかりであることを知り、悩みや不安を抱えもした。課題に対する情報を集め、より多くの知識を得るほどアジアはさらなる深みや広さを見せ、私はアジアを知る道のりの長さ身に震えた。しかし、課題に対する問題意識を深めることで、さらに多くを知り、アジアの現状や真実を見たいと欲する躍進力を高めることができた。

研究活動のなかでは、新たな知識を得るのみならず、私自身の考え方の根本を変える出来事があった。それは、昨年 11 月初頭に、大分県にある立命館アジア太平洋大学(APU)を訪問したフィールドワークである。APU でのアジア人留学生へのインタビューは、この一年間のなかで最も貴重な収穫であった。そこで私は率直に、APU は日本ではないと思った。留学生と日本人学生とが分け隔てなく交わる環境が、APU から日本という枠組みを取り払い、グローバルと表現するに相応しい場を作り上げていた。私はそこで日本人としてアジアの留学生たちと意見を交わした。私は、多摩大学のグローバルスタディーズ学部身を置くものの、あれ程までに日本人としての立場を明確に意識して、他の国・文化出身の人間と接したことはなかった。インタビュー相手のアジア人留学生たちは、皆揃ってそれぞれの国と文化を背負っており、その重みが彼らの真剣な意見から伝わってきた。彼らは、自らの意見を私に介し、そして日本人に訴えかけてきた。このことは、私自身が日本人であること、そして、私がああ場で日本を背負っていることに気付かせ、意識させた。

まさに目が覚める思いであった。本当のグローバルな交流とはどのようなものかを、彼らによって教えられたのである。この APU で感じた興奮は忘れ難く、今でも鮮明に覚えている。インタビューの中で、グローバルな人間とはどういった人物かを留学生たちに尋ねたが、彼らの存在そのものが答えであった。

今後の課題

今年度の研究にて感じた課題は、より多くの文献調査と、フィールドワークによる人との交流の必要性である。基本的なことながら、細かな諸問題に取り組む以前に、今年度の研究においては、この 2 つが何より必要であったと思う。前者に関しては、私の担当であるカネに関する研究をする上で、金融に関する知識をまったく持ち合わせていなかったにも関わらず、金融について学ぶことなく調査を始め、右も左もわからず大変苦労したことが理由である。文献調査は、知識の土台作りや、調査課題を見つけた後の、問題意識の明確化においても重要であると痛感した。

後者に関しては、人が持つ生きた情報に触れることが、新たな発見をする上で重要であると、大分でのフィールドワークにて実感したためである。このゼミの活動では、一人ひとりが、それぞれの目線を通したオリジナリティーを持った研究を行うことが最も大切だが、そのための最も効果的な方法は、自らの五感を用いて学ぶフィールドワークだと思う。今年度の活動中に行ったフィールドワークは、ヒトの分野に関するもののみであったため、来年度には全ての分野に関するフィールドワークを行うことが望ましい。

「参考文献」

- ・ ADB Asia Development Outlook 2010 (<http://www.adb.org/>)
- ・ IME World Economic Outlook Database, October 2010 (<http://www.imf.org/>)
- ・ IMF Cooperated Portfolio Investment Survey (<http://www.imf.org/>)
- ・ JETRO 国地域別情報 (<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>)
- ・ UNCTAD, FDI/TNC database (<http://unctadstat.unctad.org/>)
- ・ 川村雄、財団法人日本証券経済研究所「アジア証券市場とグローバル金融危機」(きんざい、2010)
- ・ 経済産業省 対外経済政策サイト (http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/)
- ・ 日本アセアンセンター ASEAN 日本統計集 (<http://www.asean.or.jp/ja/>)

第4章【産業】

経営情報学部3年

西村 遼

4-1 問題意識

約1年に渡り、アジアに関し、調査・研究を行ってきた。アジア・経済と一概に締めくくっても分野が多岐に渡り、何に的を当て調査を行うかが研究前からの最大の焦点であった。私はアジアという大くりの中で焦点をどこに当てようか考えた末、一番の関心事は、新興国の人口増大に伴う資源の減少及び資源の再利用の育成に関し、調査研究を行いたいと感じていた。その上で、私の問題意識は、「アジア諸国の人口拡大に、伴う資源の有効活用と共にその背景に先進国の人口減少の動向を具体的に探る」という事にした。アジア新興国は、人口拡大に対し、食料や他の環境資源が危ぶまれる一方、先進国は日本を含むシンガポール、韓国などは、少子高齢化に喘いでいる。

新興国と先進国の狭間にどういう背景があり、課題を列挙し、今後の位置づけを行う事がこのレポートの趣旨である。世界の国々が共に共存共栄を図る為には譲るところは譲り、推し進めるところは進める事が重要である。

何事にもバランスが重要である事がこのレポートを通して改めて分かった。

【資源】

4-2 「バングラデシュの水資源」

日本は大変水に恵まれた国である。海に囲まれ山に囲まれ豊富な環境の下に育った日本人には「水」の大切ささえ分からないのが本音であろう。しかし、世界各国を見て見れば未だ飲み水さえも満足に飲めない国や地域が、存在するのが現状である。ダイナミックな視点で捉えると地球上に存在する水の97.5%が海水という。人間が必要とする水はたった2.5%の淡水である。淡水の68.7%の水が氷河の中にあるという報告もある。世界各国の水不足問題を取り上げれば、アフリカを思い浮かべる方も多であろう。今回、別の講義でバングラデシュの水不足問題を取り上げた。その事を良い事例として考える。

バングラデシュというとアジア最貧国と言われている。人口は約1億6000万人(2010年)大概の方はバングラデシュというと低額融資(マイクロクレジット)に従事し、ノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌス総裁を思い浮かべ、さらに中国に対するリスクマネジメントの代償としてバングラデッシュに新規に、工場などの移転が行われている事を想像される方もいるであろう。バングラデシュは、新興国である為高所得・中所得層と低所得層の貧富の差は大変大きなものである。また、教育面も不十分であり、識字率は53.5%(2009年)というので約半数の人が読み書きが出来ないのである。

日本はほぼ100%に達しているので、大きな違いが認識出来るであろう。このような国で生きる上で、最低限の確保が今不十分なのである。最低限の確保を行うべく世界各国が開発途上国発展の為に経済社会の発展、福祉の向上を行うべく、ODAを有効活用する。日本

も ODA で総額 95 億 7910 万ドルの支援を行った。

ODA を使い、現地人の為に井戸を掘り、水を供給するということが行われているが、地理的な理由で地下水にはヒ素が混入している場合が多く既にバングラデシュの国民の 3000 万～8000 万人が地下のヒ素中毒被害を受けたという報告も出ている。また、ODA が果たして、現地人、特に貧困層撲滅、水の安定供給の利用に使われているのかと言えば、不確かなものがある。すなわち貧困層など社会貢献の利用目的ではなく政府側が不正受給しているという報告もある。それ故、貧困層はなかなか支援を受け入れられない現状も報告されている。

このような国では、政府よりも NPO や NGO、ソーシャルビジネスの展開が盛んに行われている。ソーシャルビジネスで水に関する良い例として、フランス・ヴェオリア・ウォーターがある。フランス・ヴェオリア・ウォーターはムハマド・ユヌス総裁のグラミン銀行と提携し、貧困層中心として、10 リットル 3 タカで貧困層撲滅の為に活動が行われている。

しかしながら、現地人たちにとって水をお金で買うという習慣がない為、敬遠されているというのも現状である。筆者にとっても果たして水を買う習慣が今後さらに助長していくとは思えない。経済成長と共に生活費の確保さえ出来れば水を買う機会が増える事が考えられるが、最善の策ということとは言えないであろう。

現状をどのように打破するのが問題なのである。NPO、NGO が優良の策と考えていた私は、11月 23 日寺島学長との面談の中で、そうではないという事実にも気がついた。NPO、NGO というと貧困層など困っている人の役に立つ組織が多く、人助けをしているという印象があったが、一部の組織には、幹部など組織団体が不正受給を行い、事実上困っている人の役に立っていないという事実もある。貧困層にどのように水を届ければ良いだろうか？日本人の先進国目線と開発途上国・新興国との目線を勘案した上で物事を考えねばならない。すなわち、大事なことは「人と人」の協力である。筆者は現地人独自の努力を期待したいと思う。上述のとおり、貧富の差が拡大しているのが現状である。所得の多い人が低所得者の支援を行うようなシステム作りを構築する必要があると判断する。

4-3 「石油産油国の事例」

あなたはあらゆるものに、石油を使って製品が、使われている事を御存知であろうか？暖房など防寒に使われるケースも多いが、例を挙げればプラスチック製品などはすべて石油で賄っている。こう考えるならば、日本のような資源小国にとって石油産油国・ドバイが一時期石油王で話題になったが、とてもうらやましいと思ったであろう。しかしながら、今後は、石油産油国と石油使用国がどのように共存共栄していくとともに、石油一本だよりの現体制を変えていく必要がある。

本来、資源とは無限であるよう自覚している部分があるかもしれないが、有限である。

その事を世界の国々で各自が認識し、有効利用をどのように構築していくかが最大の焦点である。参考文献「資源クライシス（加藤尚武著）」著書の第4章に「産油国の貧困」という箇所がある。そこには、「イスラム世界の事例やロシアの事例が挙げられ。石油などの資源が確保されているのに、国が豊かにならない」なぜならば「石油依存国家は官民ともに社会集団が未成熟」の部分があると記されている。確かに、石油産油国を調査していくと中東に集中している。

中東は御存知の通り、社会基盤の整備が遅れ、医療などの社会保障が整っていないというのが現実である。また、宗教関係も根強く人々に息づいているということもある。

4-4 「石油資源はどのくらいあるのか」

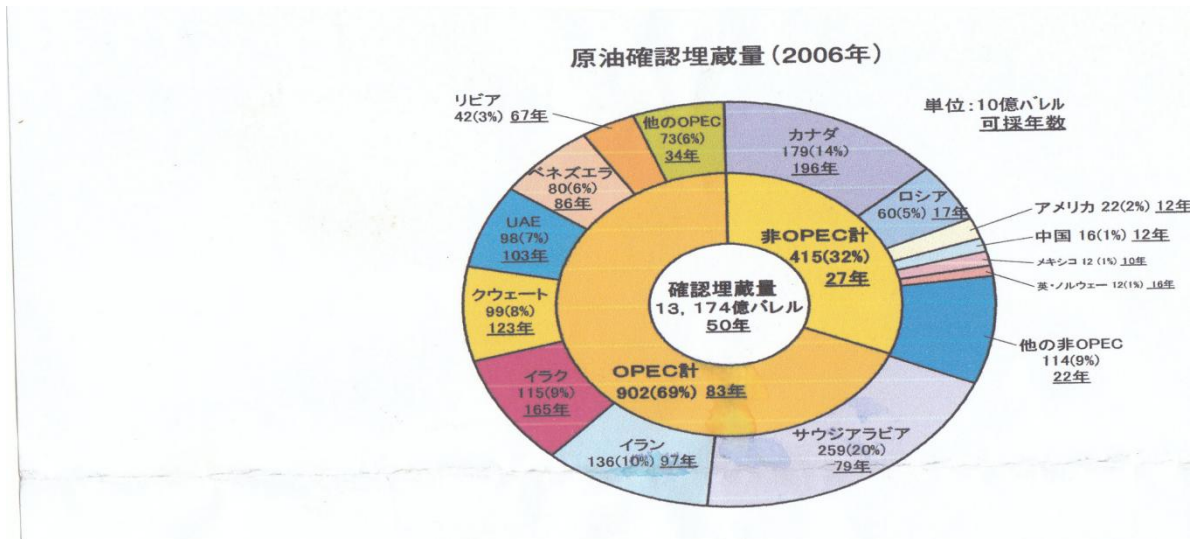
資源小国日本は御存知の通り、資源がほとんどない。日本が現在まで多く頼ってきた石油の原始埋蔵量は6~7兆バレルと推定。一次回収の平均的な値としては30%程度と言われている。外部からガスや水を圧入して油を取り出す2次回収、熱エネルギー、廃ガス、界面活性剤等の化学薬品、微生物などを投入する3次回収によって回収率は、40%程度まで上げることができるとされている。現在の技術で経済的に生産できる確認できる確認埋蔵量は、約1兆バレルというが、その中で約65%が中東地域に集中している。サウジアラビアは、一国だけで世界の約25%の石油を保有しており、巨大産油国ということが言えよう。世界の原油確認埋蔵量は、1兆2007億バレル、可採年数は、40.6年である。この数字を聞いたならば全世界の国民が意識を持つことが必要である。

回収率の向上や追加的な石油資源の発見・確認によって、1980年以降、可採年数はほぼ40年程度の水準を維持している。

「世界各所のエネルギーについて」

エネルギーの安全保障についてだが、通常自給率50%の確保が重要である。アメリカでは自給率73%。中国では94%であるのに対し、日本では原子力を含め17%。原子力なしでは7%しか保有していない。

世界の石油埋蔵量



出所:OPJ

4-5 「石油の次に大事な資源」

資源というとやっぱり、一番は石油を思い浮かべる人が多いのではなかろうか?もちろん石油が一番の資源と言っても過言ではない。しかし、金属資源とエネルギー支援は明らかに違うということをここでは認識しておきたい。参考文献著書の中に「最大の資源はエネルギー資源ではなく、金属資源である」と記されている。

特に、金属資源の中で、数が少なく、コバルト、チタン、ニオブ、バナジウムが代表的なものとしてされる「レアメタル」がある。昨今中国の尖閣諸島問題を起因として輸出が停止された「レアアース」もレアメタルの1つである。鉱物資源に限って言えば、掘れば掘る程なくなる。埋蔵量が確保されている。日本も貴重な鉱物資源を一定的に供給できるよう一定量を以前から留保している。

ここ、数年で経済的に掘れなかった低品位の鉱石が経済性を持ち始め、これまで資金面から調査していなかった周辺部分の探鉱結果、採掘可能な埋蔵鉱量は増えているのである。

【人口】

4-6 「先進国の異常なる少子高齢化」

この問題は日本のみならず隣国・韓国も死活問題となりつつある。日本を含む先進国は少子高齢化を迎え、子供の数が減少するとともに、高齢者が増えるという悪循環の構成が、今後続いて行くことになる。日本などは特に少子高齢化の進捗状況が激しく、高齢社会を迎えつつある。また、高齢者を対象とするビジネスが盛んに行われつつある。老人ホーム

でも盛んに新しいものが出来、高級老人ホームが盛んに出来つつある。その中で、貧富の格差が増加し、高所得者と知所得者の差が一段と増えつつある。また、昨今話題になっている消えた高齢者問題。人昔前なら家族が親の面倒を見て、介護を行ったが、その体制も崩れてきた。

家族が亡くなったのも市役所に死亡報告をせず、年金を不正受給する事件が相次いだ。このような事象はそこまでしないと生活費の確保がままならない現実を浮かびあがらせた。「無縁社会」という言葉が NHK スペシャルの番組を通して、反響を呼んだ。年間約 3 万 2 千人の孤独死者。年間約 3 万人の自殺者。日本は、いつからこんなに人の事を考えられなくなったのであろうか?人と人との交わりが家族でも消えつつある中、どう人を支えていけばよいのか?

日本人一人ひとりが問題意識を持つ事が大事だと筆者は切願する。なぜならば日本は、経済のみならず人との結びつき希薄になっている現状をよく各自把握するとともに、日本人が苦手だとされるアクションを今起こすべき時なのである。アジア・経済班専任担当の金 美徳教授は韓国経済が 1998 年のアジア通貨危機の困難を乗り越え、現世界の経済成長率第 15 位まで躍進したのは、人々の「危機意識」が高かかったからだとして述べられている。しかしながら、韓国経済においては、大きく躍進した事は間違いないが、少子高齢化ということに関しては、日本よりも特に厳しい現状がある。アジア新興国人口増大の事柄は、3-2「アジア新興国の人口増大」で詳しく記すことにするが、先進国と新興国の人口増減を将来の事を考える必要がある。

4-7 「アジア新興国の人口増大」

アジア新興国は世界の中で、多くの人口を抱える国に成りつつある。世界の総人口は 2007 年 2 月時点で 65 億人を突破した。2013 年には 70 億人。2050 年には 92 億人に達すると予測されている。世界総人口の伸び率は 1970 年の 2.1%が最大のピークでそれ以降は低下傾向が続き、現在は 1.14%である。しかしながら、今後 50 年間は世界の人口は増えるとされ、どのように共存・共栄を図っていくかが焦点である。人口が特に中国の約 13 億人。インドの約 11 億人。今後経済の分野においても人口拡大に伴い急成長が盛んになることが予測されている。

【環境】

4-8 「利害関係が浮き彫りに」

2010 年は日本で国際会議の主催国となった年と言っても過言ではない。日本が TPP 環太平洋経済連携協定の是非で話題となり、菅首相が期待をして臨んだ APEC アジア太平洋経済協力会議の印象が強いが、10 月に名古屋市で開催された通称 COP10・生物多様性条約第 10 回締約国会議を忘れてはならない。この会議は、先進国と新興国が共にどうすれば生

物多様性が保持できるかを決定する重要な会議であった。

また、最大の焦点は生物遺伝資源の先進国と新興国との利益配分問題であった。結局のところ利害対立が鮮明化し、具体的な方向性までは結論が出なかった。

新興国の躍進が目立った2010年は新興国をどう世界のルールに乗らせるかが大きな焦点であった。今までは、先進国のみで議論が盛んになり、新興国の意見をどちらかといえば相殺してきた環境議論が先進国と新興国がお互いに議論を交わした。

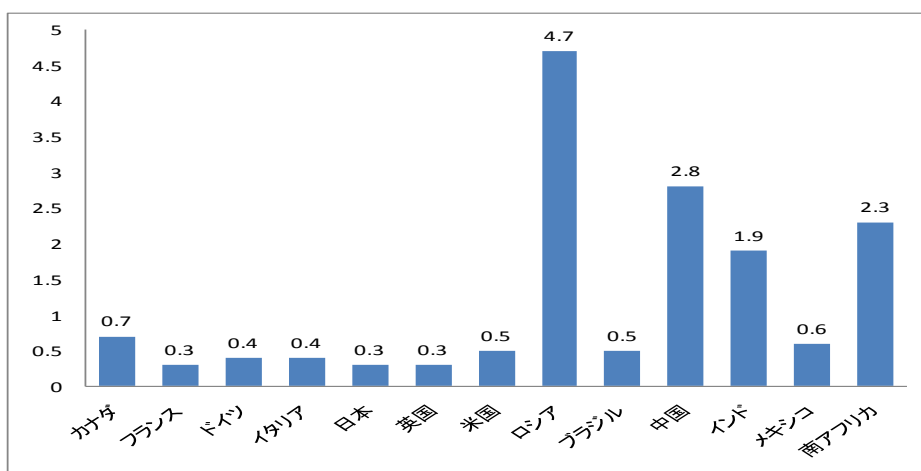
しかしながら、先進国は未だ先進国目線しか捉える事が出来ず、新興国も新興国目線しか議論出来ないという事を解決しなくてはならない。地球環境に関してはどの国にとっても利害がある。国際ルール作りを先進国と新興国と勘案した上で基盤作りを定義する必要がある。

4-9 「日本の環境対策」

環境問題に関する国際会議として COP10 の後にメキシコで開催された気候変動枠組み条約第16回締約国会議 (COP16) である。この国際会議では、名前の通り地球変動特に地球温暖化に関する事をメインに議論する国際会議であった。地球温暖化というと日本人では1997年に議決した京都議定書を考える。今回の COP16 でも京都議定書を元として現在にどう基準を変えていくかが最大の焦点である。日本は鳩山政権が打ち出し温室効果ガス (CO2) 削減目標を2020年までに1990年比 - 25%という方向性を導き出し、世界有数の環境保護国としての印象が高い。

しかし、日本が国際ルール作りの主導権を握れないのが現状である。特に問題なのはアメリカと中国という報道がなされているが、GDP当たりの排出量の比較では突出して多いのがロシアで数値で4.3%を占める。アメリカは0.5で日本は0.3である。見方を変えれば、アメリカと中国が突出しているというわけではないと判断する。

GDP 当たりの世界各国との CO2 排出量の比較 出所:環境省 温室効果ガス資料



出所:環境省 温室効果ガスデータより筆者作成

4-10 「日本主導のフレームワークを作成せよ」

環境対策に積極的な日本とは対照的に CO2 排出量として大きく捉えれば議論に積極的に参加しないアメリカと中国は後ろめたいと感じる。しかしながら、見方を変えれば果たしてアメリカと中国が本当に後ろめたくて他の国は後ろめたくないのかと捉えれば、そうではない。

また、前述の通り地球環境問題は日本を含め大国同士での議論ではもうなくなっている。地球環境が脅かされている現状を捉えれば先進国・新興国が共に腹を割って議論をし、方向性を導く必要がある。

その上で、日本が主導権を握り、大きな目標を掲げるのではなく、中期的目標と位置づけ、先進国と新興国は何が出来るか?相手の立場になって一度議論する必要がある。

日本が主導権を握るには他国よりもより環境問題の議論の「志」が高いことが第一である上、目標に関しても高くなくてはならない。現在の日本の目標は、前述の通り、1990 年比 CO2 を 2020 年までに - 25%削減という方向性は非常に高いと感じるが、国民一人一人まで根付いていないのが現状である。現状では、排出権取引を少なからず使うしか道がないのである。

国民一人一人の CO2 削減に関して意思を高めるには、伝える側に意識を強化すると共に、政府などの行政が国民に対し強いメッセージを出す必要がある。

4-11 まとめ・感想

今回大きく「産業」に視点当て、「資源」「人口（貧困）」「環境」の 3 つのテーマに関し論文執筆を行った。全体的に感じた事は、日本の立場がその時により、何であり、どのように世界と交わり解決していくのかをしっかりと導く必要があることを実感した。アメリカとの沖縄基地問題、中国の尖閣諸島問題、ロシア・メドベージェフ大統領が北方領土を視察、北朝鮮による韓国砲撃事件に関し大きく日本の外交戦略が問われたのも今年である。

アジア圏の人口拡大と共に食糧問題・人口問題・環境問題・資源問題など課題は多岐に上るが、「食糧」「資源」などは努力を行ってもある程度限りがあるものであると感じている。その限りがある分野で人間がどのように価値を認識し、最大限に有効活用できるかである。必要最低限の物を使えば良いのであり、無駄に過大に使用する必要はないと考える。そして、使ったものは出来る限りリサイクルを行い、再利用をすることが不可欠である。再利用をするという事を持続的に行うことにより、環境問題の影響を最低限に済ますことが出来る。

世界情勢を見ても既得権益の増大を目指す事が主目的で他国が協力し合う関係が未だ整っていないように感じる。根本的に必要とされる他国との協力体制を確立しなくてはならない。2010 年は中国のレアアース問題で世界を驚かせた。既得権益の増大を最優先に考える中国との関係をどのように世界が替えていくか目が離せないが、一国が独占的に資源を

使用する事は現在の世界情勢では考えられない。上述の通り他国が協力しあいながら、永続的に暮らしていく事が今後の地球のあり方だと考えている。

4 - 12 今後の課題

今回の第一主目的は「資源」である。今後の課題は「資源の有効活用及びリサイクル」である。

日本は他国に比べてもリサイクルの回収技術・再利用を積極的に行っている上、今後の見通しも明るいと思う。しかしながら、中国企業が日本から出た使用済み鉱物資源等を積極的に買い入れ、母国に持ち帰り、再利用している事が気になっている。今後、日本等で使用済み鉱物資源の買い取りを強化し、母国に持ち帰り再利用する動きはさらに活発化していく状況になっていく考えがあり、日本の体制強化が必要だと思う。

また、資源の確保という部分に視点を当てれば、リスクマネジメントにどのように対応するかが焦点である。リスクがあるから多国間と付き合う事は重要であるが、どの程度の付き合い方をするのか?ネットワークの拡大こそがリスクマネジメントの対応方法なのかは考える必要がある。

参考文献・資料

- 「資源クライシス」 丸善株式会社 加藤尚武著 (2008年)
「低炭素社会」 幻冬舎新書 小宮山 宏著 (2010年)
「新しい経済学」 角川SSC新書 浜 矩子 (2010年)
人的マネジメント 白桃書房 柳沢しおり・池田 浩著 (2010年)
外務省 HP 法務省 HP 経産省 HP 環境省 HP

おわりに

アジア・経済班グループでは4つのフレームワークに基づき調査・研究を行ってきたわけであるが、一番最重要視したのは「ヒト」の分野である。私は「ヒト」の分野の担当ではないが、グループ内での報告でヒトの部分の情報は共有している。「グローバル人材」と「訪日外国人」がメインのテーマであった。特に2010年11月15日フィールドワークとして大分県・別府市に所在するアジア太平洋立命館大学（以下、APUと省略）へ行き留学生にアンケート調査を実施した事がアジア・経済班の極め付けであったと言っても過言ではない。APUでは留学生を中心にアンケート調査を実施した。留学生の内訳は中国・韓国・台湾・インド・インドネシア人など複数国の方から調査を得た。留学生から見た、日本の現状を見て日本もまだまだ捨てたものではないと実感した。質問内容は、現状の日本を見てどのように感じているか具体的に質問を行った。例として「日本のホスピタリティをどのように感じているか?」「グローバル人材とはどういう人物の事か?」「日本で働きたいか」などである。

私が一番驚いた点は、日本で働きたいかと言った質問に留学生の大多数が日本で就職を行いたいという回答が返ってきた点である。日本企業には技術力はあるが、海外、特に近年隣国の韓国企業に苦戦を強いられているのが現状である。その上で、大方の留学生が日系企業及び日本国で働きたいと言った意見が聞かれた事は非常に新鮮な気持ちになった。

留学生からの意見を得て、深く考えさせられた事は、非常に好奇心旺盛で、「希望」「志」に満ち溢れていた事である。日本の近年の若者は内向き志向・安定志向とされる中で、彼らの原動力は果たしてどこから来ているのであろうかと問題意識を抱いた。彼らと触れ合う中で、日本が未だ魅力的である事を感じ、私たち日本人は日系企業にどのように貢献し、また彼らと新しい企業の創造が出来るのか。彼らの知識や知恵を借りる事が不可欠である。

最後に今回、アジア・経済班専属教員として携わって頂いた金 教授には年頭からアジア戦略アジアの切り口等を教えて頂いた。また、2010年11月15日のAPUフィールドワークの際には共に同行して頂き、ご協力を頂いた。

この場をお借りして金 美徳教授に感謝を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

総括の立場として寺島学長にはアジア・経済班の研究・調査に当たりご指摘を承り、方向性を見出す事が出来ました。この場をお借りして寺島実郎学長に感謝を申し上げます。ありがとうございました。